

**東京都立産業技術  
高等専門学校  
「卒業生調査」**

**調査報告書**

**平成 30 年 12 月**

**株式会社 リベルタス・コンサルティング**



# 目次

第 1 部	アンケート調査概要 .....	1
第 2 部	アンケート調査結果報告 .....	4
第 3 部	総合分析結果 .....	59
第 4 部	資料編 .....	62



## 第1部 アンケート調査概要

本調査研究の調査概要は、以下のとおり。

### 1-1 調査目的

東京都立産業技術高等専門学校（以下、「産技高専」という。）の卒業生に対する調査を行い、在学時の教育内容や学生生活の満足度、今後の教育や学生支援への要望について調査し、経営戦略に活かすための基礎資料を得ることを目的とする。

### 1-2 調査概要

産技高専の卒業生に対し、調査協力依頼及び案内状ハガキを送付し、WEB 画面を作成後、調査に対する回答を一括して回収し、調査結果を集計・分析した。

なお、卒業生には統合・再編前の東京都立工業高等専門学校及び東京都立航空工業高等専門学校の卒業生も含むこととした。

### (1)調査対象

調査対象は、以下のとおり。

調査名	調査対象人数
卒業生調査	・産技高専へ統合後の卒業生（以下、「新高専」とする） 平成 22 年～平成 29 年度卒 1,653 名 ・統合前の卒業生（以下、「旧高専」とする） 昭和 60 年度～平成 10 年度卒（14 期分） 2,289 名
配布数	合計 3,942 名に配布
宛先不明戻り数	130 名

## (2)調査方法

調査方法は、以下のとおり。

調査名	調査方法
卒業生調査（新高専）	郵送送付、WEBによる回答
卒業生調査（旧高専）	郵送送付、WEBによる回答

## (3)調査時期

調査時期は、以下のとおり。

調査名	調査時期
卒業生調査（新高専・旧高専）	平成30年9月14日（金）～10月1日（月）
卒業生調査（※追加調査）	平成30年10月27日（土）～11月5日（月） ※10/27、10/28の高専祭において、荒川・品川の両キャンパスの卒業生にそれぞれ150枚ずつ案内を配布

## (4)有効回収数

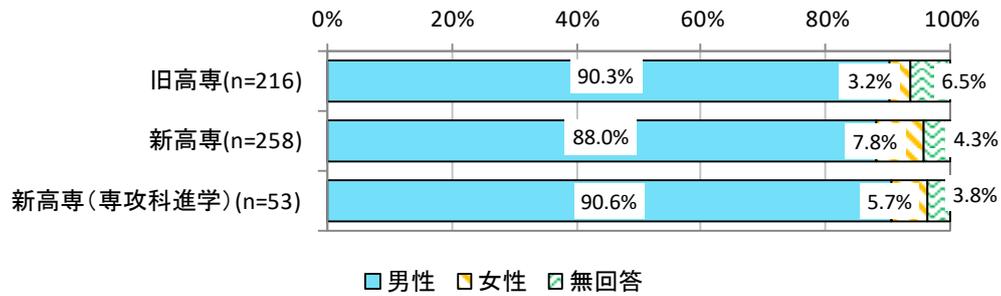
有効回答数は、以下のとおり。

調査名	回収数
新高専	311件（回収率19.5%）
旧高専	216件（回収率9.71%）
合計（新高専+旧高専）	527件（回収率13.8%）

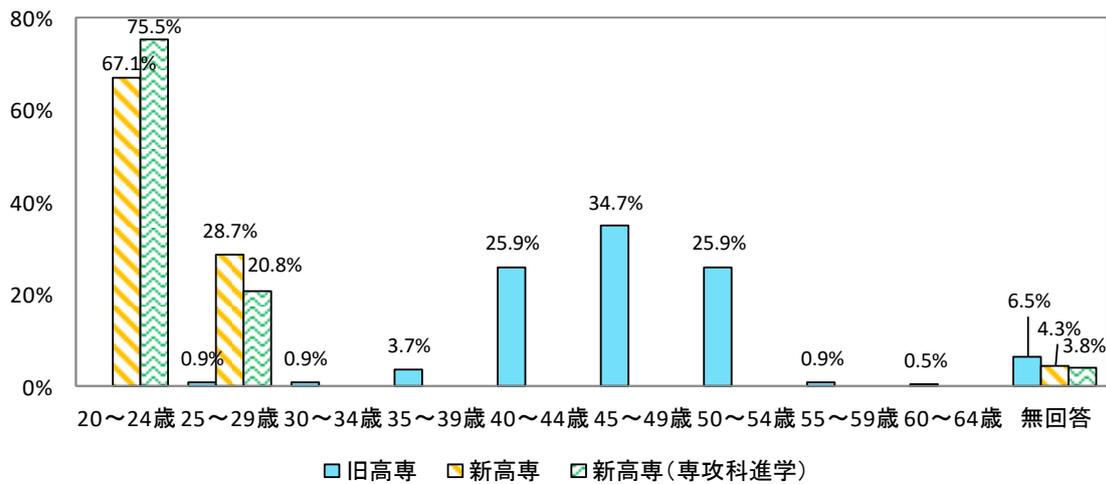
### 1-3 回答者属性

回答者属性は、下記の通り。

図表 1-1 性別（新高専・旧高専別）



図表 1-2 年齢



### 1-4 調査結果の比較対象

今回の調査結果の分析対象のデータとして、以下の調査を使用している。

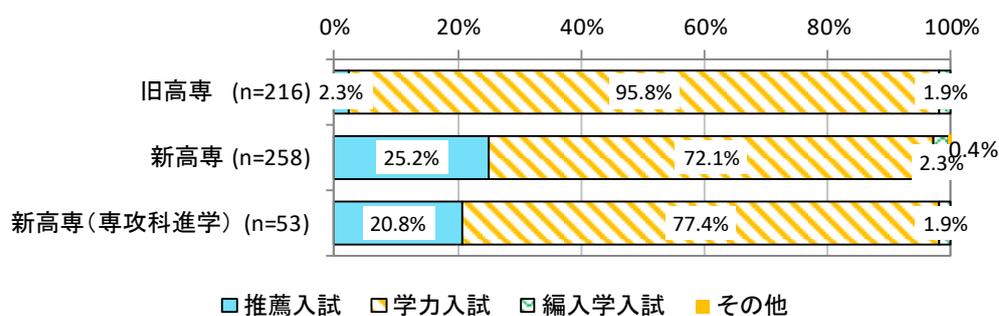
- 平成25年度東京都立産業技術高等専門学校に関する卒業生アンケート調査のうち、卒業年度が平成14・16・18・20・21年度の卒業生140サンプル（いずれも旧高専卒業生。調査当時の年齢は、24~31歳）。世代は、今回調査の旧高専と新高専の間にあたる。

## 第2部 アンケート調査結果報告

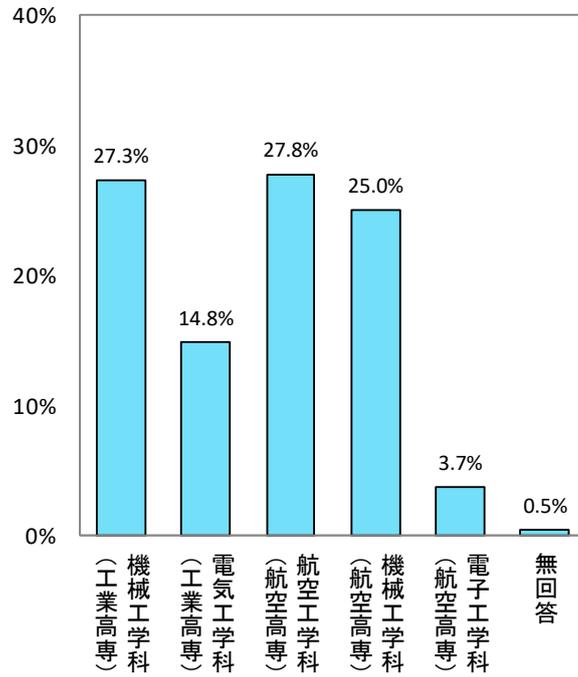
### 2-1 入学年度・入学試験・卒業年度・卒業コース／学科・卒業後の進路

- 入学試験についてみると、旧高専は95.8%とほとんどが学力入試である。一方で、新高専、新高専のうち専攻科へ進学した者（以下、「新高専（専攻科進学）」とする）は、学力入試は7割程度となり、約20%が推薦入試となっている。

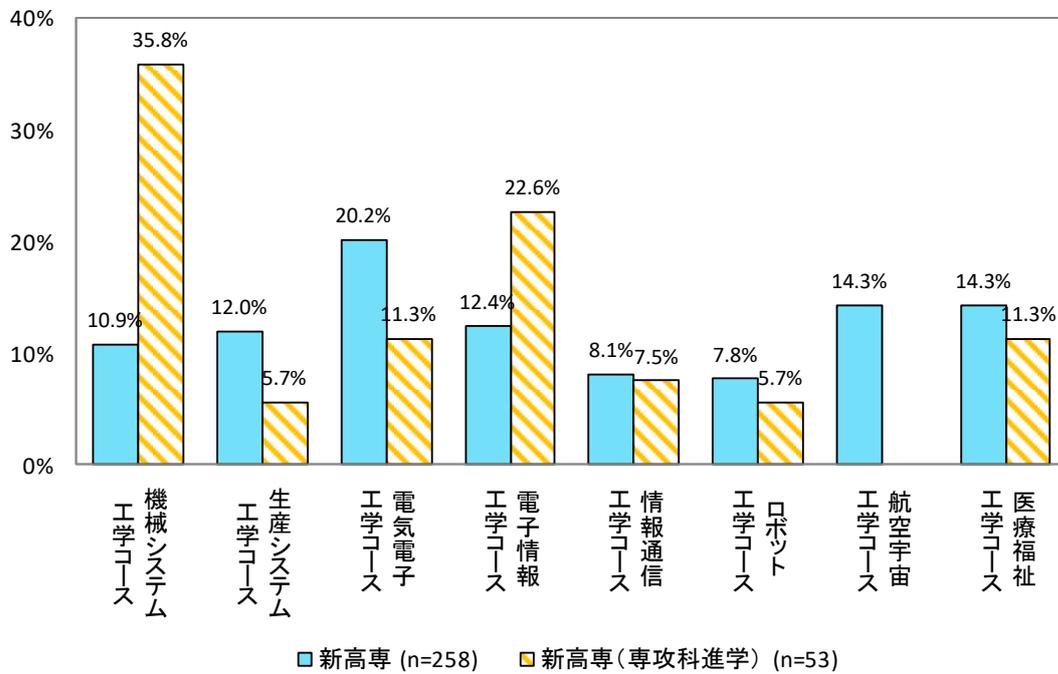
図表 2-1 入学試験



図表 2-2 卒業学科 (旧高専) (n=216)

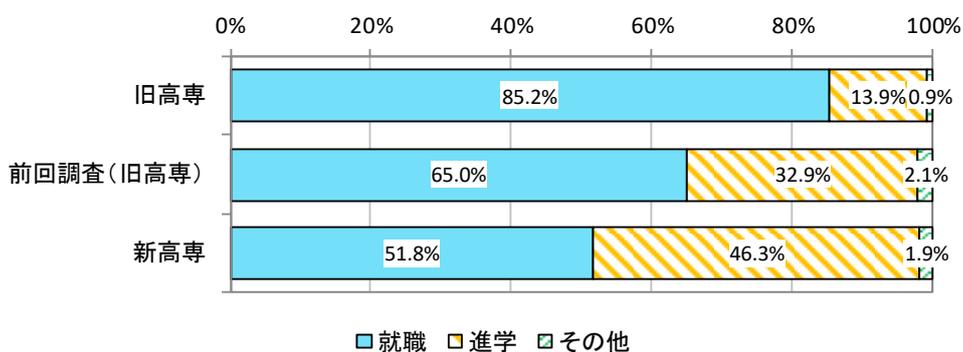


図表 2-3 卒業コース (新高専)



- ・ 本科卒業後の進路についてみると、旧高専は「就職」が 85.2%、「進学」が 13.9% であるのに対し、新高専は「就職」が 51.8%、「進学」が 46.3%と、旧高専に比べ進学の割合が高くなっている。
- ・ 前回調査では、旧高専卒業生は「就職」が 65%、「進学」が 32.9%となっており、本科卒業後の進路に進学を選ぶ者が年々増加していることがわかる。

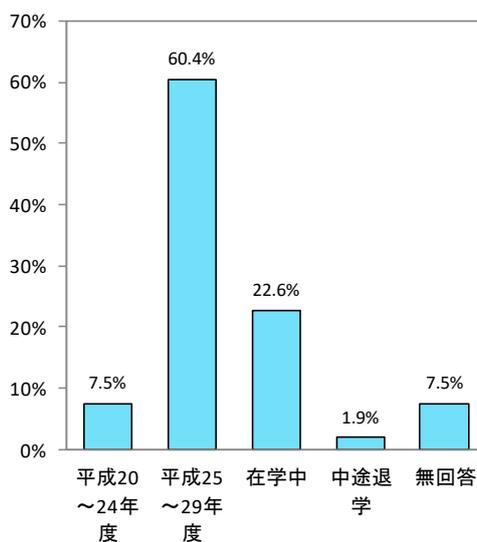
図表 2-4 本科卒業後の進路（前回調査との比較）



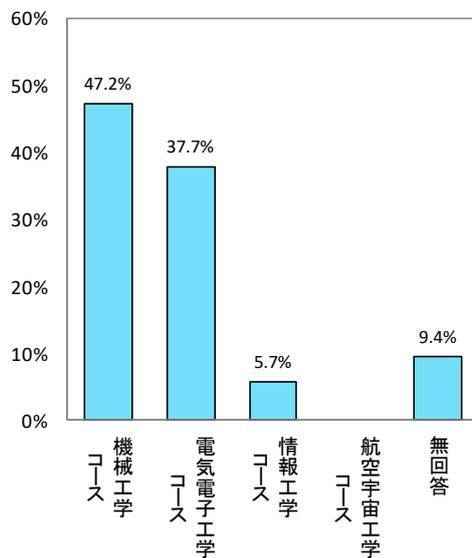
## 2-2 専攻科修了年度・修了コース・専攻科修了後の進路

- ・ 専攻科修了年度についてみると、平成 25～29 年度修了が約 60%となっている。専攻科は平成 18 年度開学のため、平成 20～24 年度修了の割合は低い。

図表 2-5 専攻科修了年度(n=53)

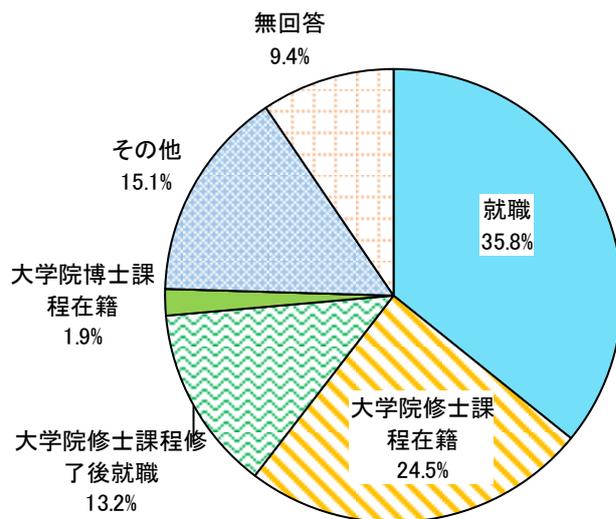


図表 2-6 専攻科修了コース(n=53)



- ・ 専攻科修了後の進路についてみると、39.6%が修士課程以上に進学している。全国の大学卒業生（工学部）の大学院等への進学者割合は 36.1%<sup>1</sup>であり、本校の専攻科修了生の修士課程進学率は大学卒業生と比べてやや高い。

図表 2-7 専攻科修了後の進路 (n=53)

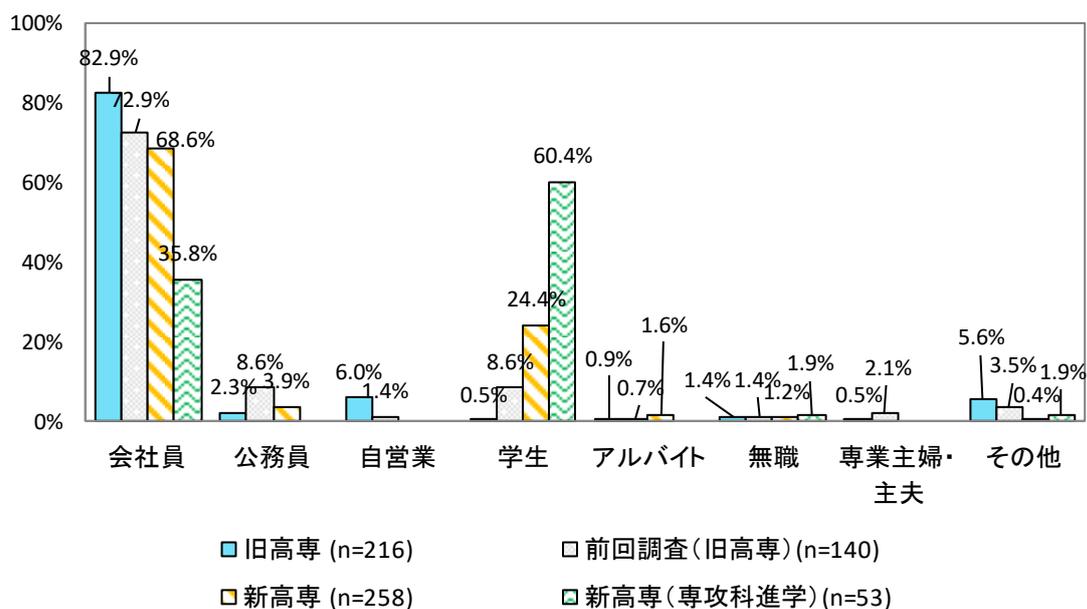


<sup>1</sup> 文部科学省「平成 30 年度学校基本調査」より算出

### 2-3 現在の仕事

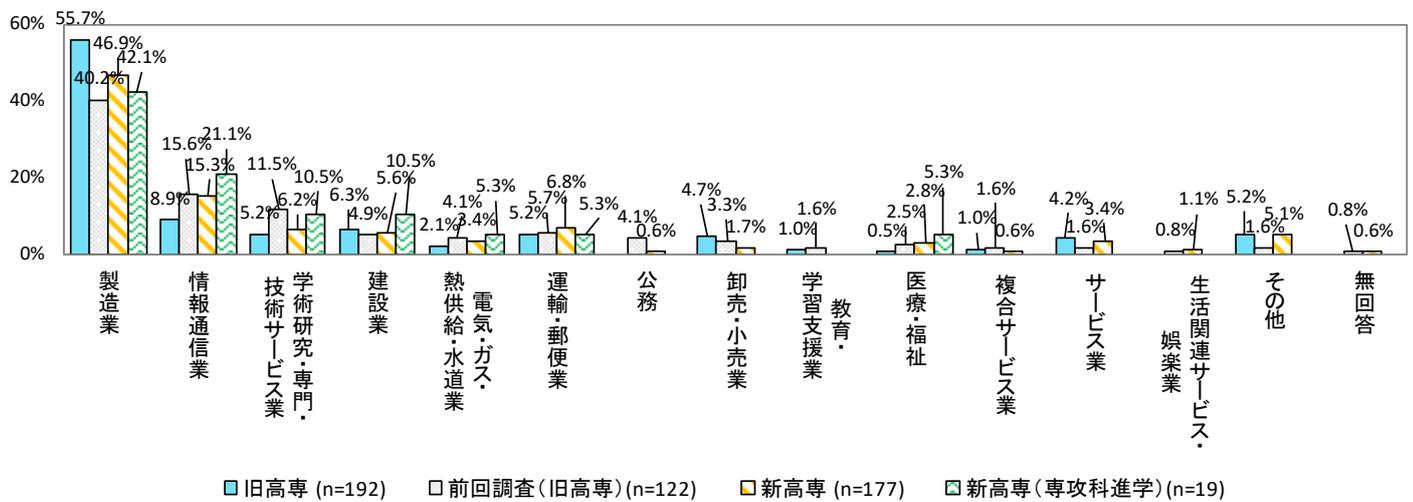
- ・ 現在の仕事についてみると、「会社員」の割合が「旧高専」(82.9%)、「新高専」(68.6%)で最も高い。なお、前回調査でも「会社員(72.9%)」の割合が最も高くなっている。
- ・ 新高専では「学生」の割合が最も高く 60.4%となっている。

図表 2-8 現在の仕事



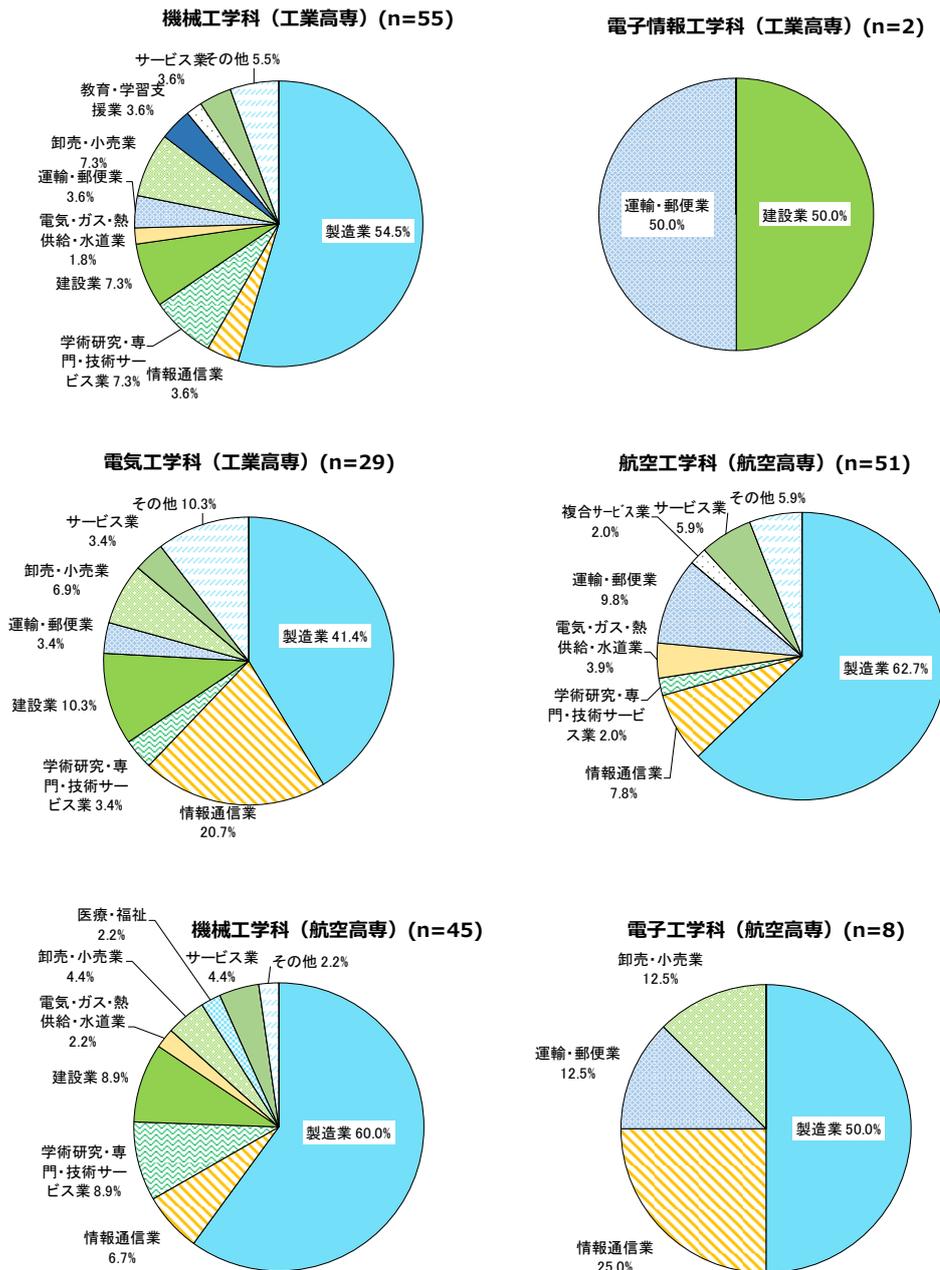
- ・ 現在の仕事の業種についてみると、いずれも「製造業」が最も多く 40%以上を占めている。
- ・ 「情報通信業」は旧高専では 8.9%だが、新高専では 15.3%、新高専（専攻科進学）では 21.1%と、旧高専よりも高い割合になっている。

表 2-9 業種



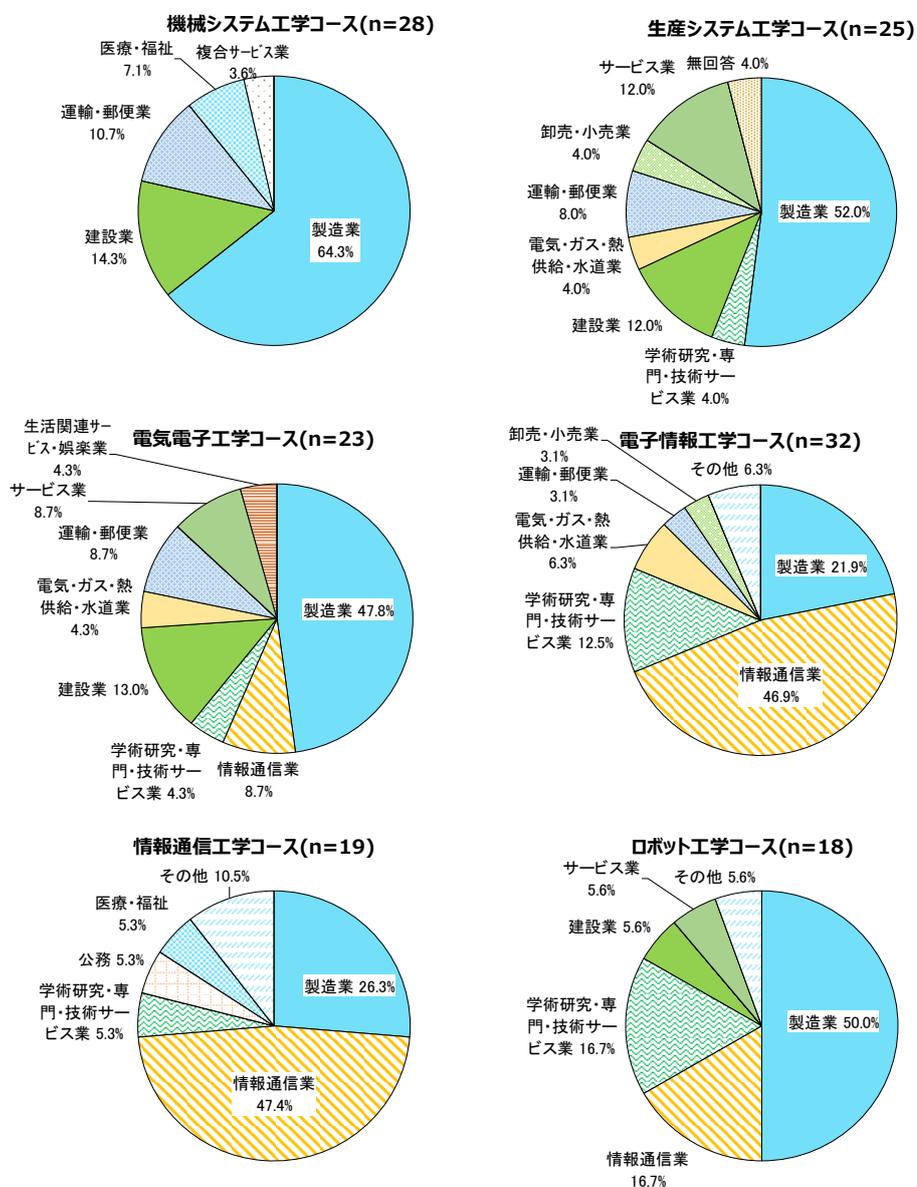
・旧高専の現在の仕事の業種を卒業学科別にみると、「機械工学科（工業高専）」と「機械工学科（航空高専）」は、近い業種構成になっている。「製造業」が半数以上を占め、次いで「学術研究・専門・技術サービス業」及び「建設業」の割合が高い。

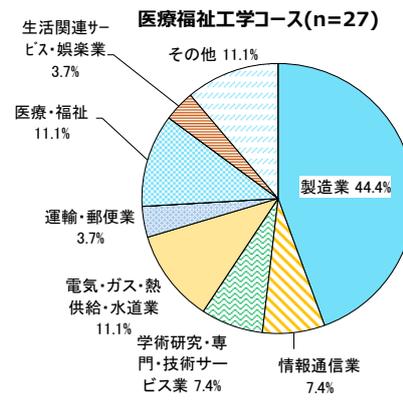
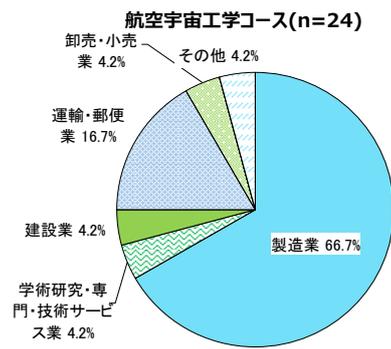
表 2-10 業種（旧高専・卒業学科別）



- ・ 新高専の現在の仕事の業種を卒業コース別にみると、「機械システム工学コース」と「航空宇宙工学コース」は、業種構成が近い。製造業が約 65%、次いで「運輸・郵便業」の割合が高い。
- ・ 「電子情報学コース」と「情報通信工学コース」は、業種構成が近い。「情報通信業」が半数近くで最も割合が高く、次いで「製造業」が2割強となっている。

表 2-11 業種（新高専・卒業コース別）

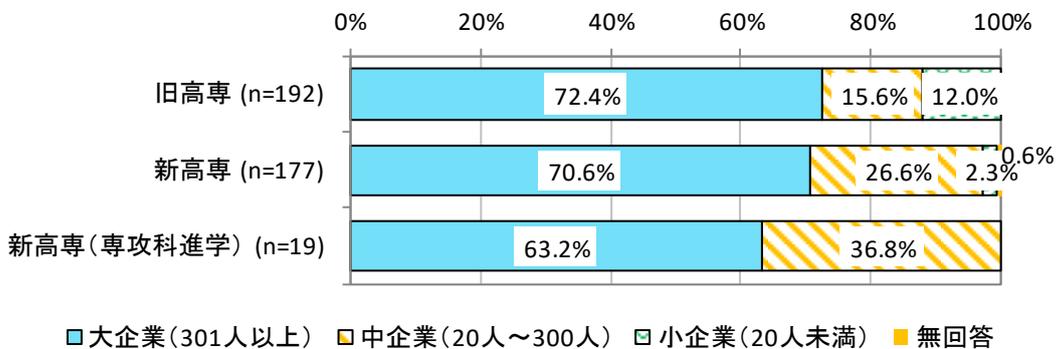




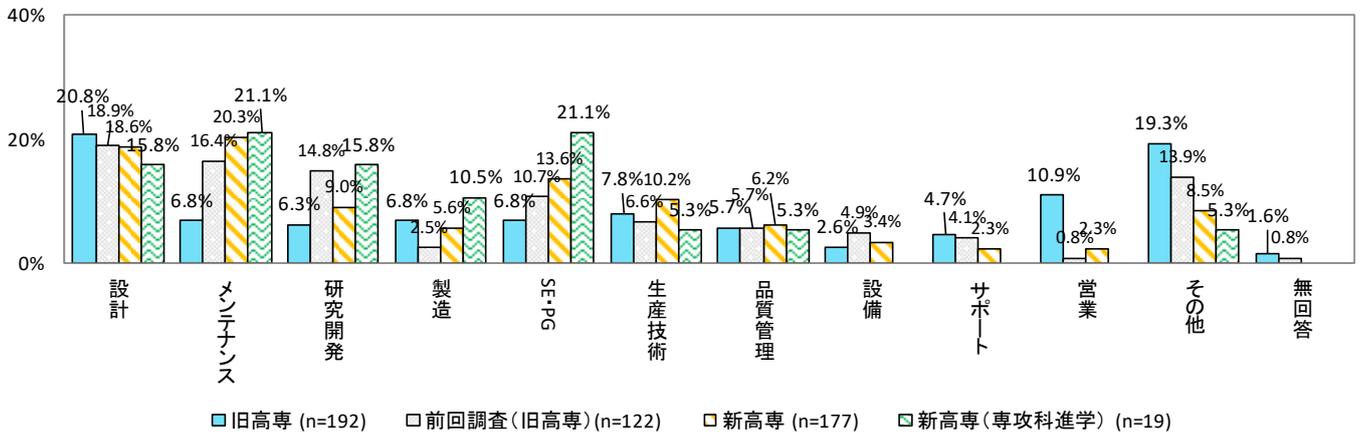
## 2-4 従業員規模・勤務先での職種

- ・ 従業員規模についてみると、旧高専・新高専ともに「大企業（301人以上）」の割合が約7割と高い。次いで、中企業の割合が旧高専は15.6%、新高専が26.2%となっている。
- ・ 勤務先での職種は、旧高専では「設計(20.8%)」の割合が最も高い。新高専及び新高専（専攻科進学）は「メンテナンス」の割合が最も高くそれぞれ20.3%、21.1%となっている。新高専（専攻科進学）は「SE・PG」の割合も同じく21.1%となっている。

図表 2-12 従業員規模

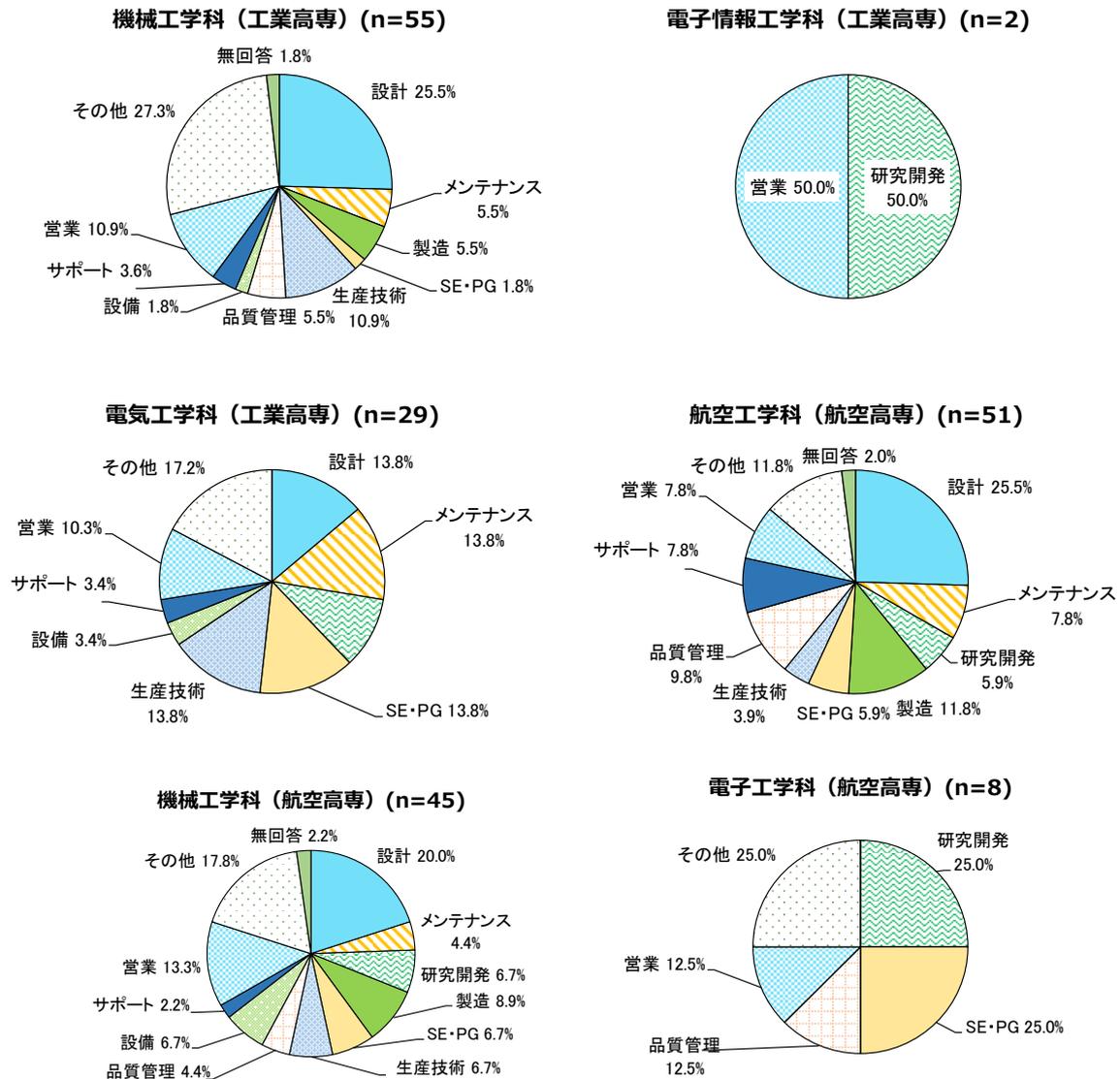


図表 2-13 勤務先での職種



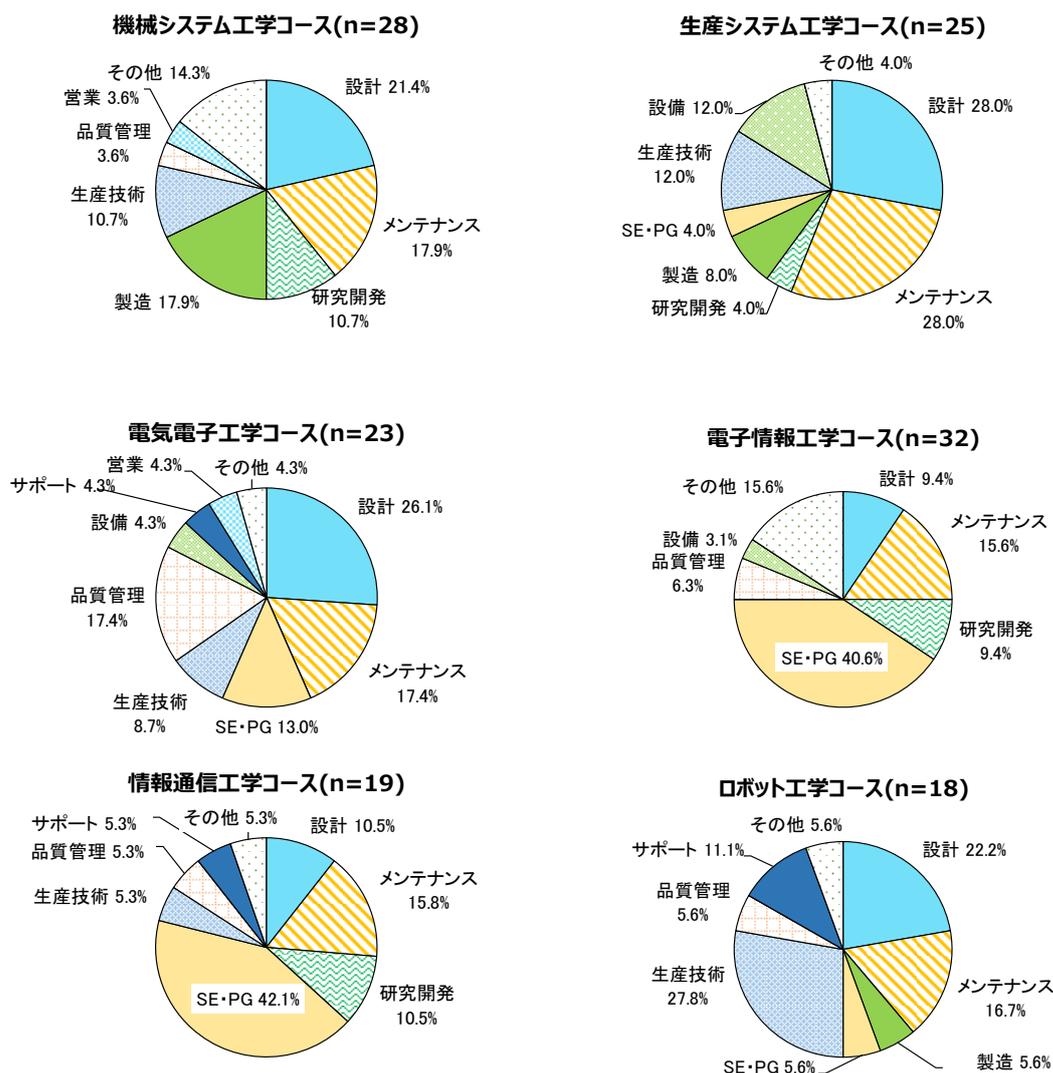
・旧高専の勤務先での職種を卒業学科別にみると、「機械工学科（工業高専）」と「機械工学科（航空高専）」で職種構成が近い。「設計」が20～25%で割合が高く、次いで「営業」、  
「生産技術」などが高い。

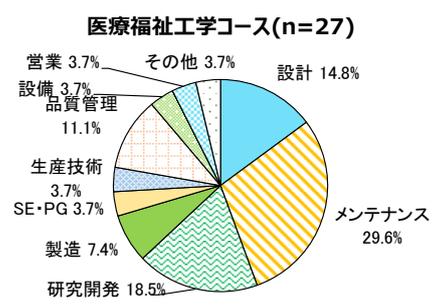
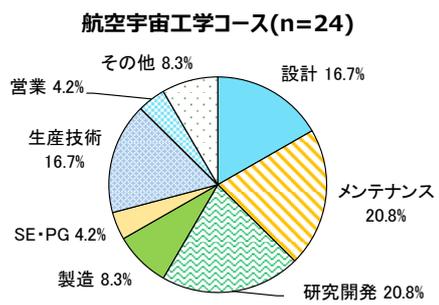
図表 2-14 勤務先での職種（旧高専・卒業学科別）



- ・ 新高専の勤務先での職種を卒業コース別にみると、「電子情報工学コース」と「情報通信工学コース」は職種構成が近い。「SE・PG」の割合が約40%と最も高く、次いで「メンテナンス」、「研究開発」となっている。
- ・ 「航空宇宙工学コース」と「医療福祉工学コース」では「研究開発」の割合が約2割となっており、他コースよりも高い。

図表 2-15 勤務先での職種（新高専・卒業コース別）

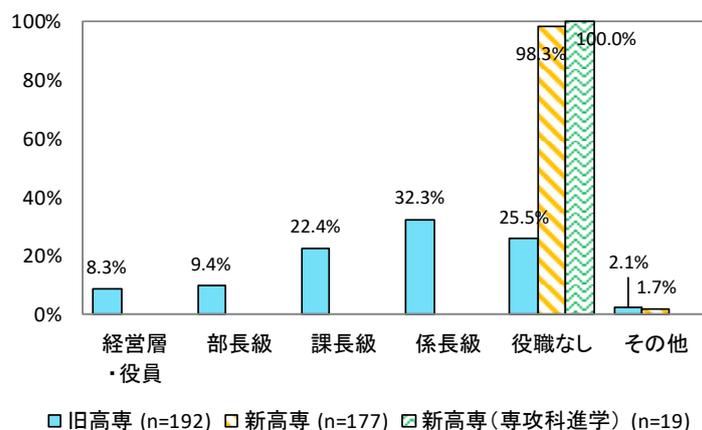




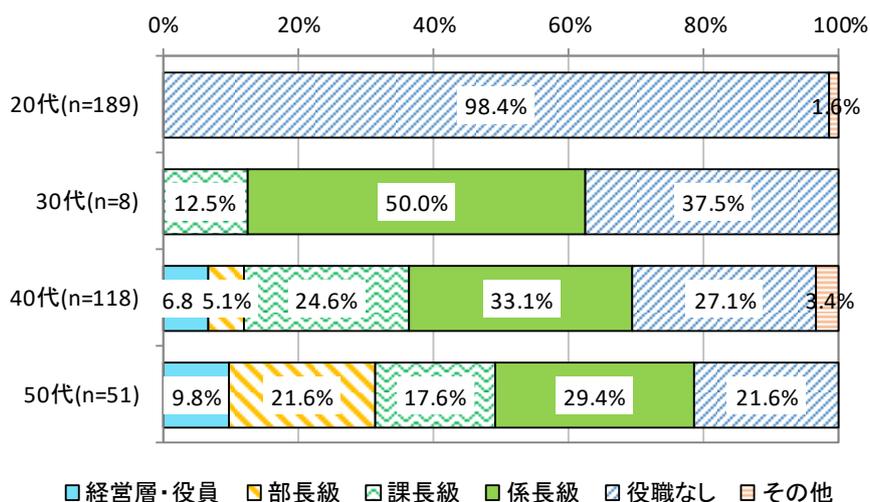
## 2-5 役職、在職期間について

- ・ 役職についてみると、旧高専では「係長級(32.3%)」、「役職なし(25.5%)」、「課長級(22.4%)」の順に多くなっている。新高専、新高専（専攻科進学）では「役職なし」がほとんどを占めている。
- ・ 役職を年代別にみると、20代ではほぼ「役職なし(98.4%)」、30代では50%が「係長級」で「役職なし」は37.5%、40代になると約70%が何らかの役職についている。

図表 2-16 役職

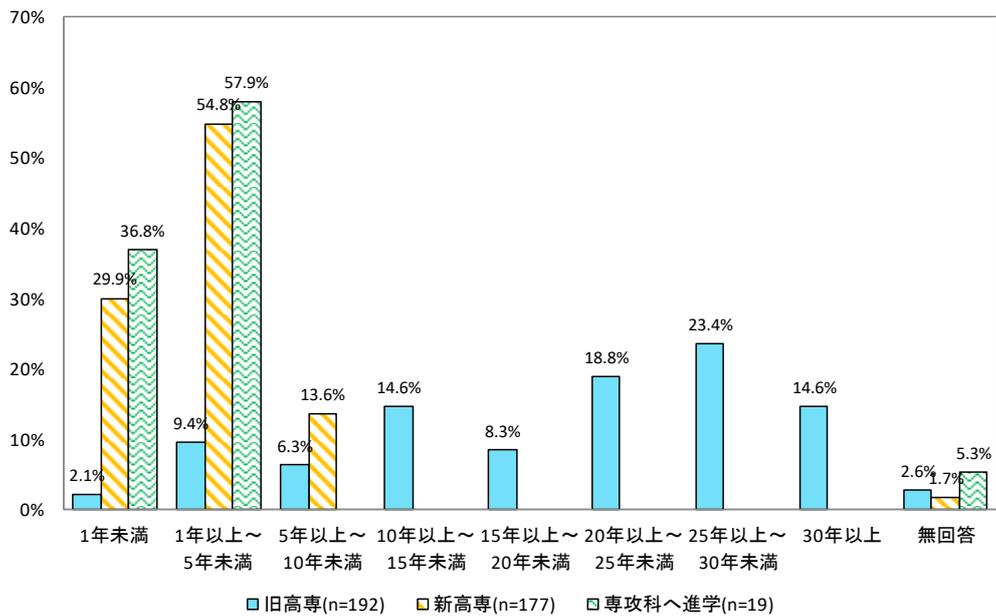


図表 2-17 役職（年代別）



- ・ 在職期間は、旧高专では「25年以上～30年未満(23.4%)」、「20年以上～25年未満(18.8%)」、「10年以上～15年未満(14.6%)」及び「30年以上(14.6%)」の順に多くなっており、合計で約80%が10年以上在職していることがわかる。

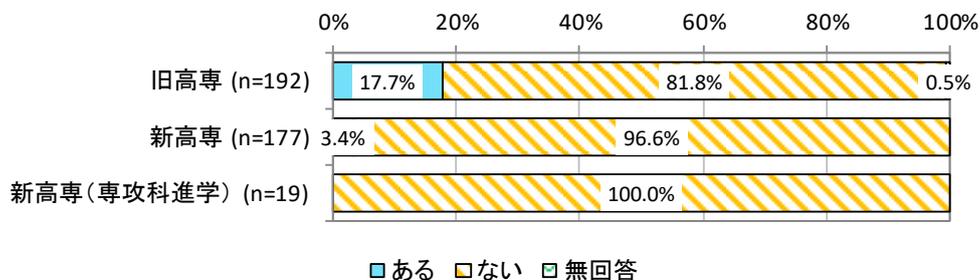
図表 2-18 在職期間



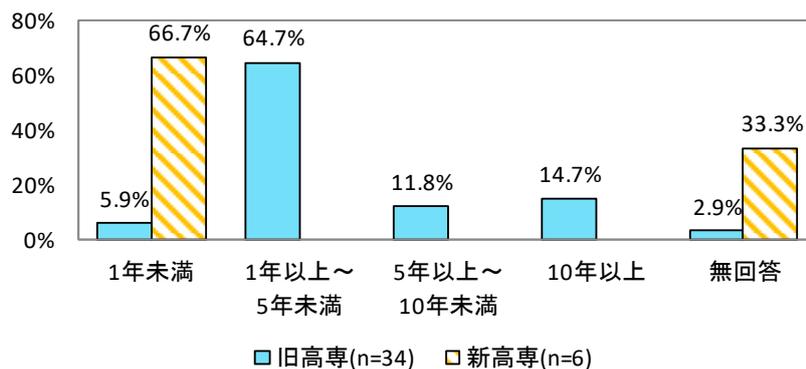
## 2-6 海外勤務経験について

- ・ 海外勤務経験についてみると、旧高専では17.7%が海外勤務の経験があると回答している。卒業後の年数が短い新高専では勤務経験ありは3.4%に留まっている。
- ・ 海外勤務経験ありの卒業生の海外勤務期間は旧高専で「1年以上～5年未満(64.7%)」、新高専では「1年未満(66.7%)」の割合が高くなっている。
- ・ 海外勤務地は旧高専、新高専ともに「アジア」の割合が最も高い。
- ・ 業務内容をみると、「現地スタッフの教育」、「現地工場管理」に携わった割合が高い。

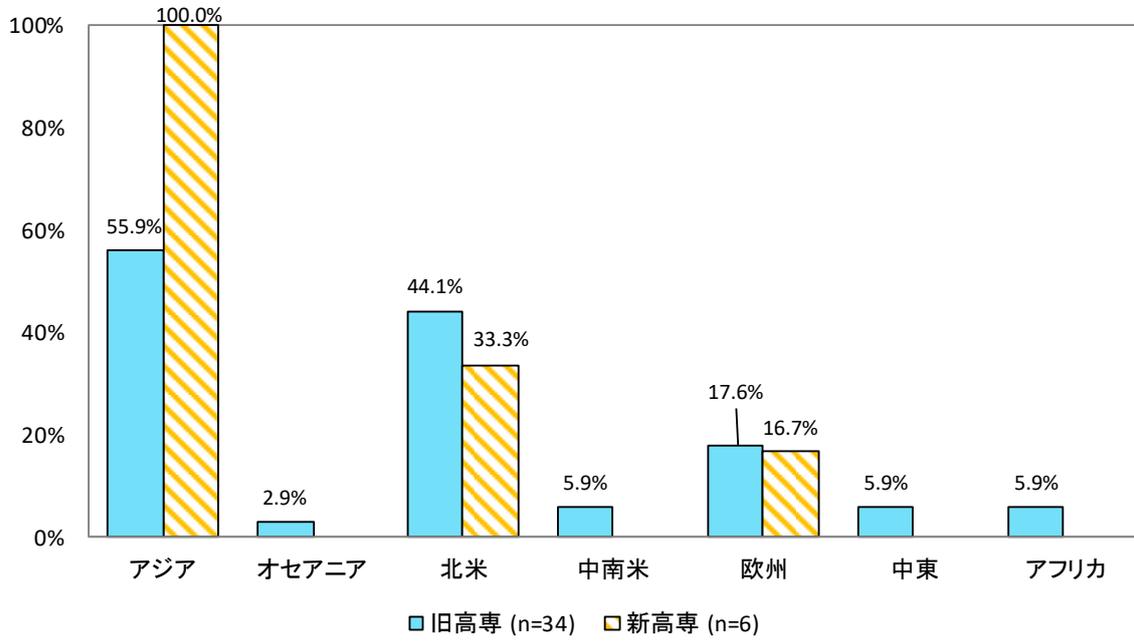
図表 2-19 海外勤務経験の有無



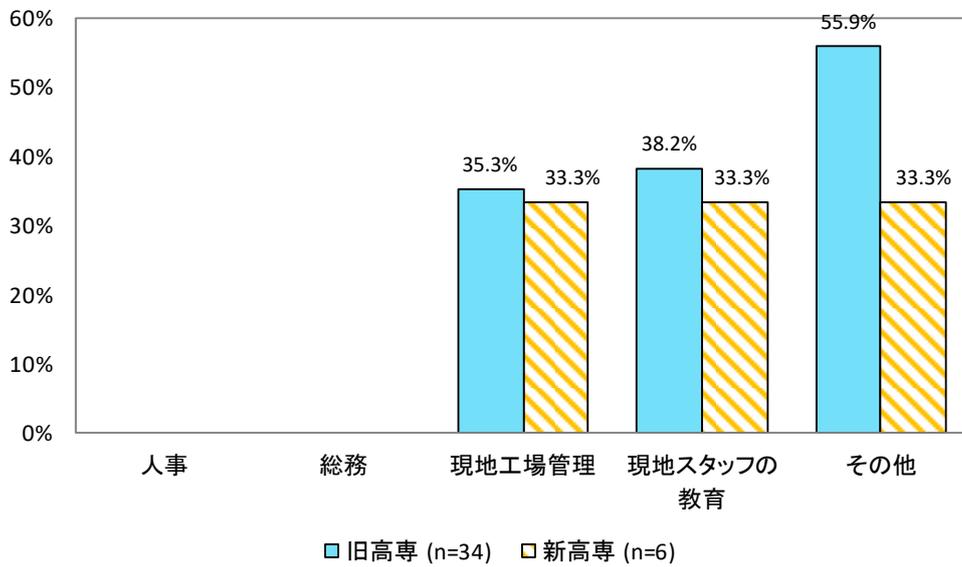
図表 2-20 海外勤務の期間



図表 2-21 海外勤務の地域（複数回答）



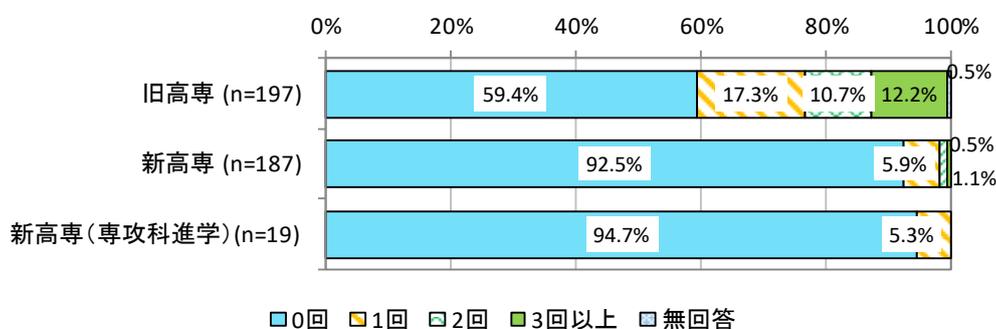
図表 2-22 海外勤務の業務（複数回答）



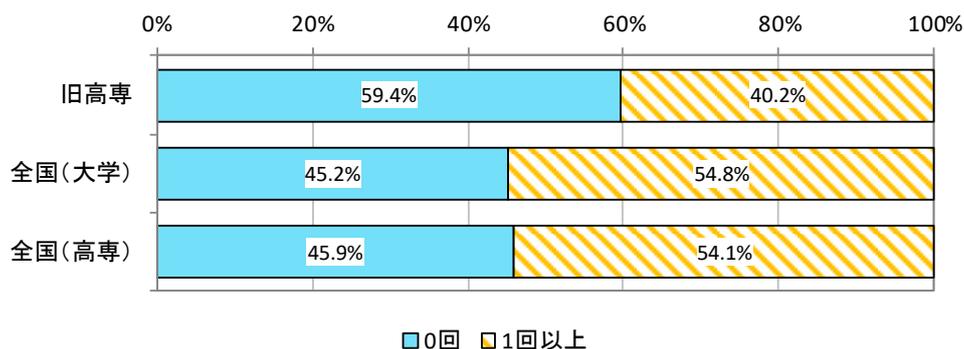
## 2-7 転職について

- ・ 転職回数についてみると、旧高専では「0回」が59.4%となっている。全国の転職回数の平均（35歳～54歳）と比較すると、全国の大卒の転職未経験の割合は45.2%、高専卒は45.9%となっており、本校の卒業生は最初に就職した企業で働き続ける割合が高いと言える。<sup>2</sup>
- ・ 新高専、新高専（専攻科進学）では「0回」が90%以上であり、転職経験がある者は少ない。
- ・ 転職の理由としては、旧高専、新高専ともに「ステップアップ」、「勤務内容」が多い。

図表 2-23 転職回数

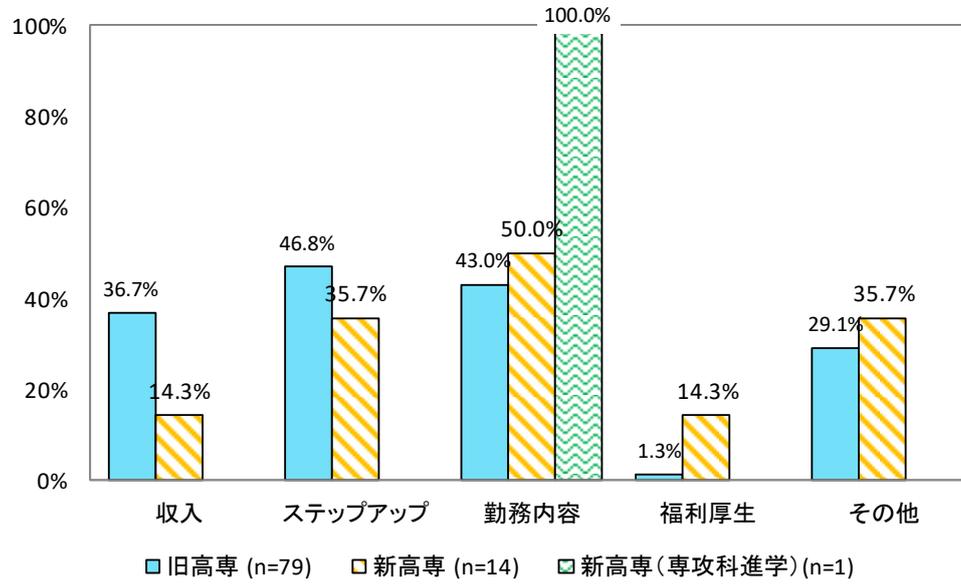


図表 2-24 転職回数（全国平均との比較）



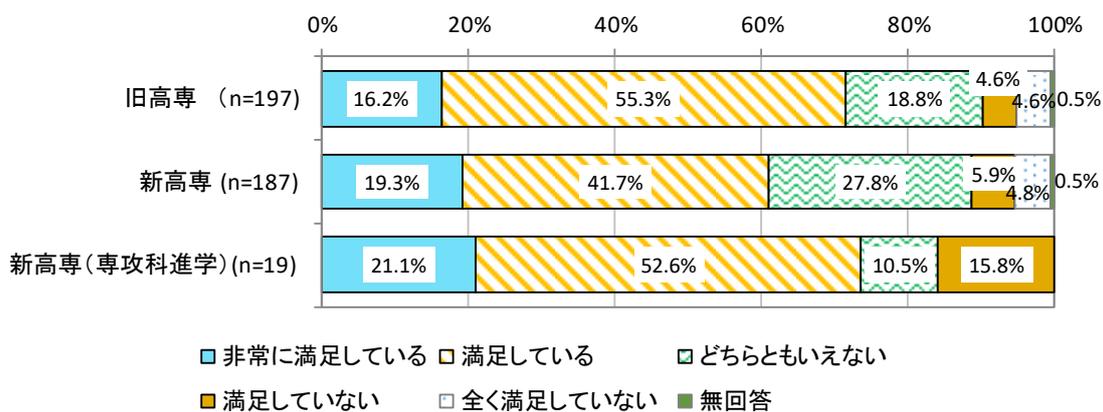
<sup>2</sup> 「平成29年就業構造基本調査」（総務省統計局）より、最終学歴が大学、高専の35～54歳の転職経験率を算出  
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200532&tstat=000001107875&cycle=0&tclass1=000001107879&tclass2=000001107880&second2=1>

図表 2-25 転職の理由（複数回答）



- 現在の就労状況の満足度をみると、「非常に満足している」と「満足している」の合計は旧高専で71.5%、新高専で61%、新高専（専攻科進学）では73.7%となっている。新高専において、現在の就労状況の満足度がやや低く、転職割合は低いものの、本人が納得していない就職をしている卒業生が一定数存在する可能性が示唆される。

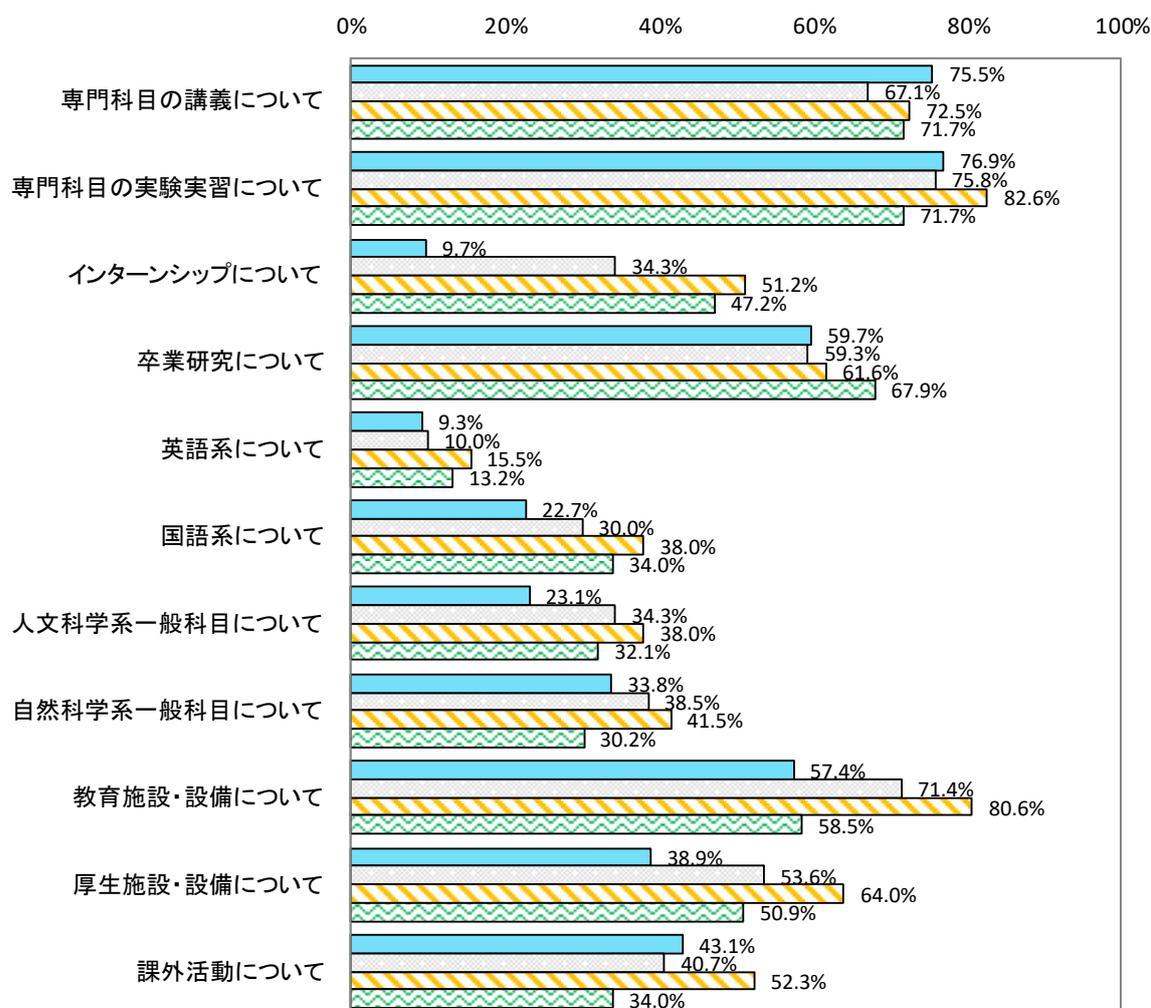
図表 2-26 現在の就労状況の満足度



## 2-8 学生生活の満足度

- 本科の学生生活の満足度についてみると、満足計（非常に満足している＋満足している）が最も高かったのは、「専門科目の実験実習について」で、旧高専(76.9%)、新高専(82.6%)、新高専（専攻科進学）(71.1%)であった。なお、新高専（専攻科進学）では「専門科目の講義について」も71.1%となっている。
- 前回調査も含めて経年でみると、「教育施設・設備について」は満足度の割合が増加している。特に、新高専では、80.6%と2番目に割合が高い。
- 新高専（専攻科進学）の満足度をみると、「専門科目の講義について」と「専門科目の実験実習について」は他と比較して満足度が低めになっているが、「卒業研究について」は他よりも満足度の割合が高く67.9%となっている。

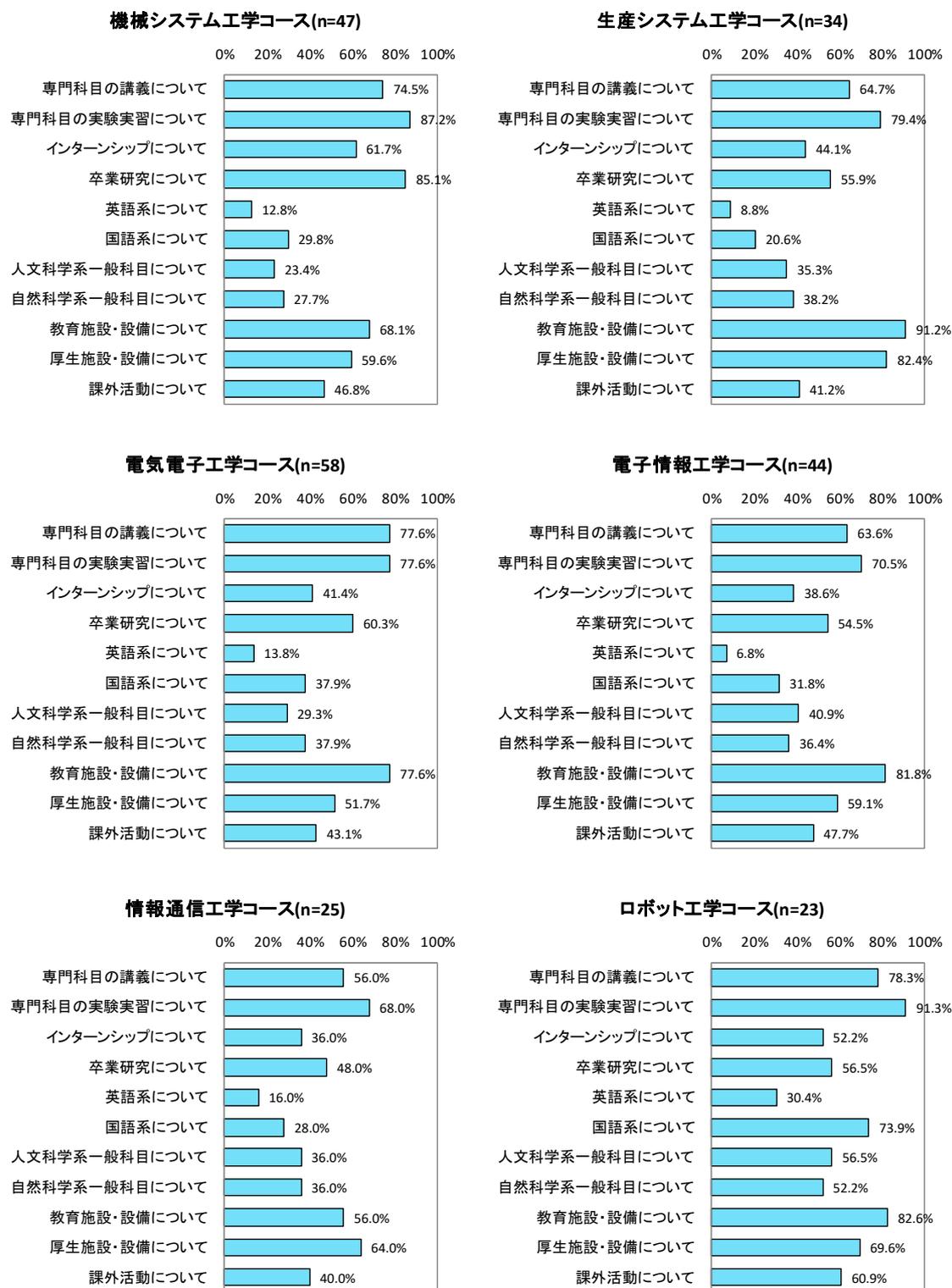
図表 2-27 本科の学生生活の満足度（非常に満足している＋満足している）



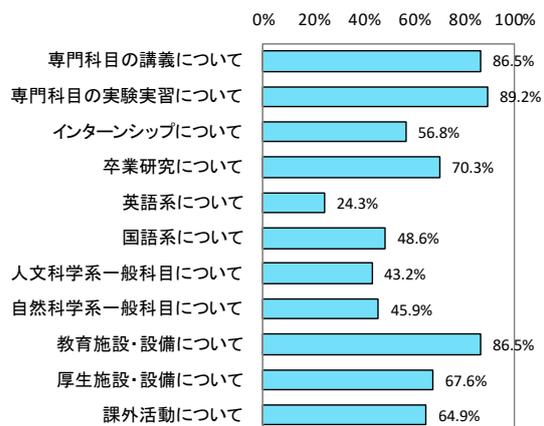
■ 旧高専(n=216) □ 前回調査(旧高専)(n=122) ▨ 新高専(n=258) ▩ 新高専(専攻科進学)(n=53)

図表 2-28 本科の学生生活の満足度（非常に満足している＋満足している）

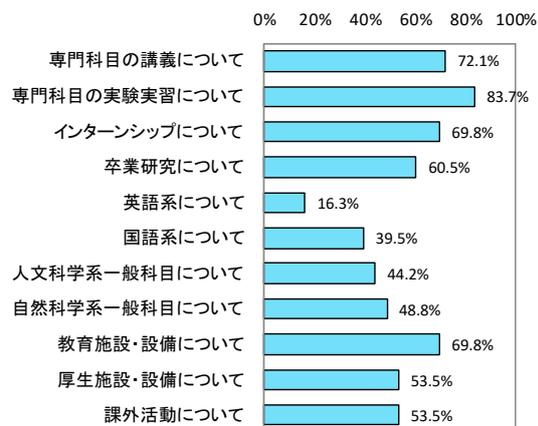
（新高専・コース別）



航空宇宙工学コース(n=37)



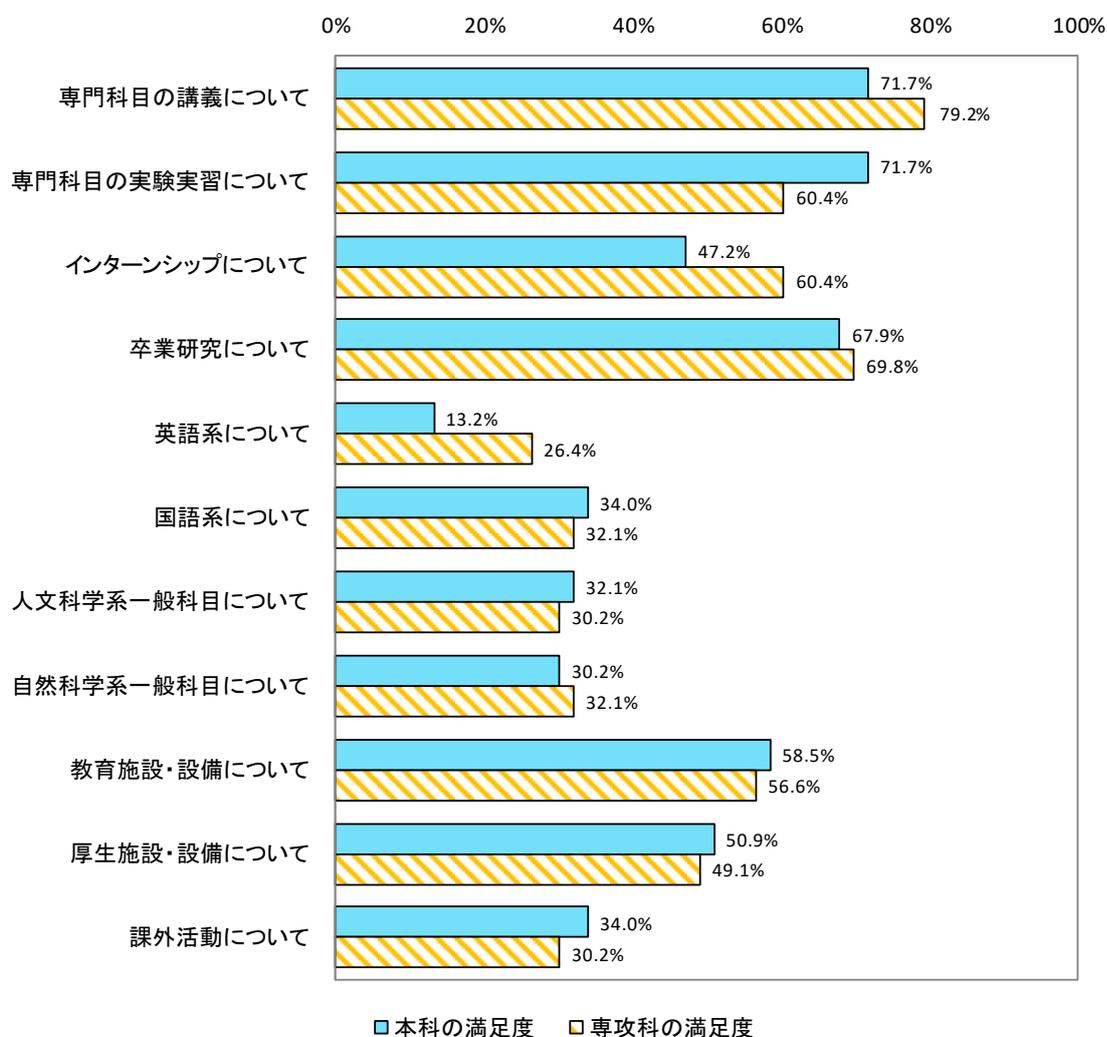
医療福祉工学コース(n=43)



- ・ 専攻科進学者について、本科時代の満足度と専攻科時代の満足度を比較してみると、「インターンシップについて」と「英語系について」は、専攻科での満足度が本科時代の満足度よりも10ポイント以上高い。
- ・ 「専門科目の講義について」は専攻科での満足度が本科時代の満足度よりも7%強、高くなっている。「専門科目の実験実習について」は、専攻科での満足度が本科時代よりも約10%低くなっている。

図表 2-29 専攻科の学生生活の満足度（本科時代の満足度との比較）

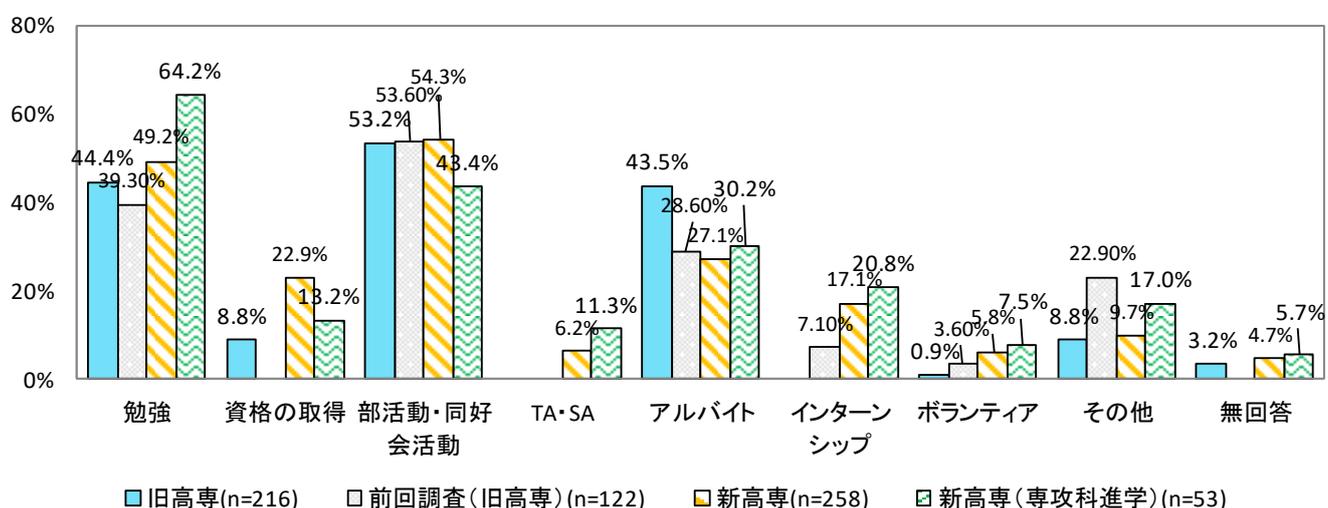
（非常に満足している＋満足している）（n=53）



## 2-9 在学中に熱心に取り組んだこと

- ・ 在学中に熱心に取り組んだこととして、旧高専、新高専では「部活動・同好会活動」の割合が約半数で最も高いが、新高専（専攻科進学）は「勉強」の割合が最も高い。なお、前回調査（旧高専）においても旧高専、新高専と同様に、「部活動・同好会活動(53.6%)」、「勉強(39.3%)」の順に高い。
- ・ 前回調査も含めた経年でみると、「アルバイト」の割合は「旧高専」で43.5%であるのに対し、新高専では27.1%と低下傾向にあることがわかる。

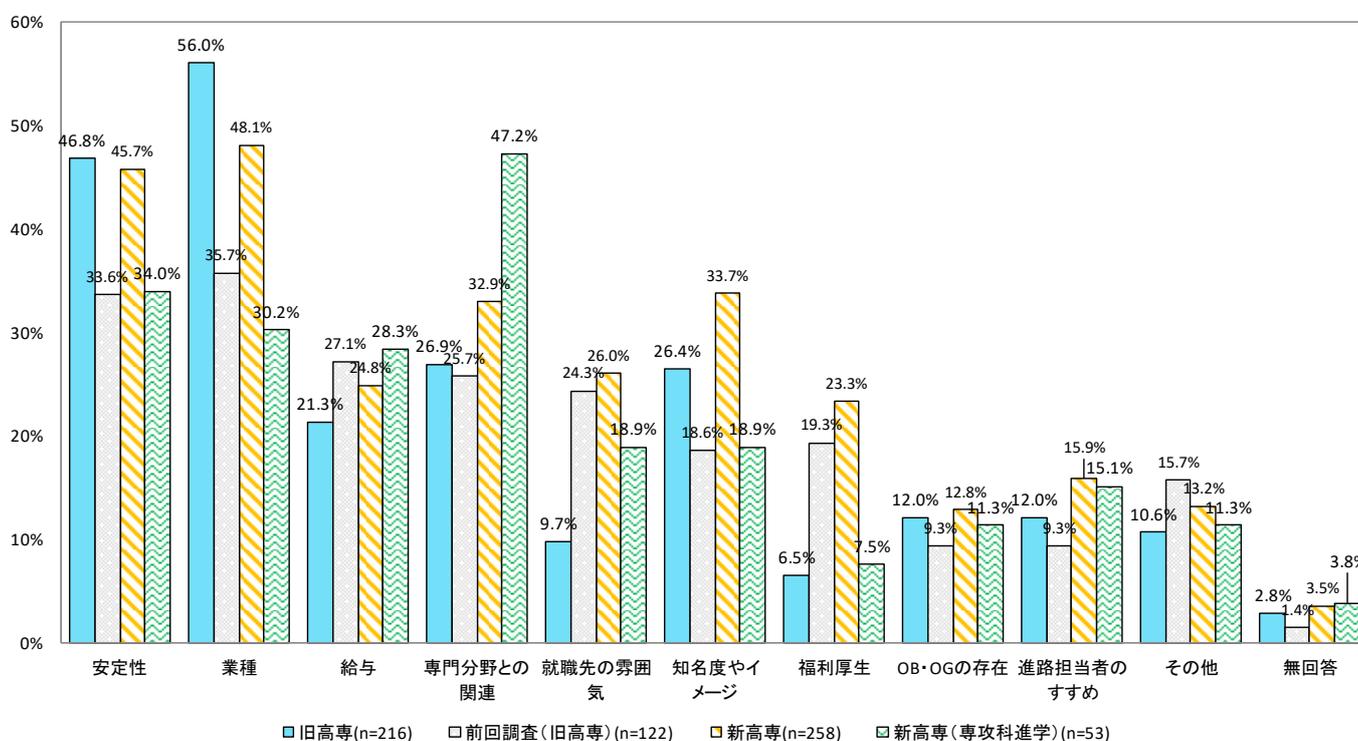
図表 2-30 在学中に熱心に取り組んだこと（複数回答）



## 2-10 就職先や進学先を決定するうえで重視したこと

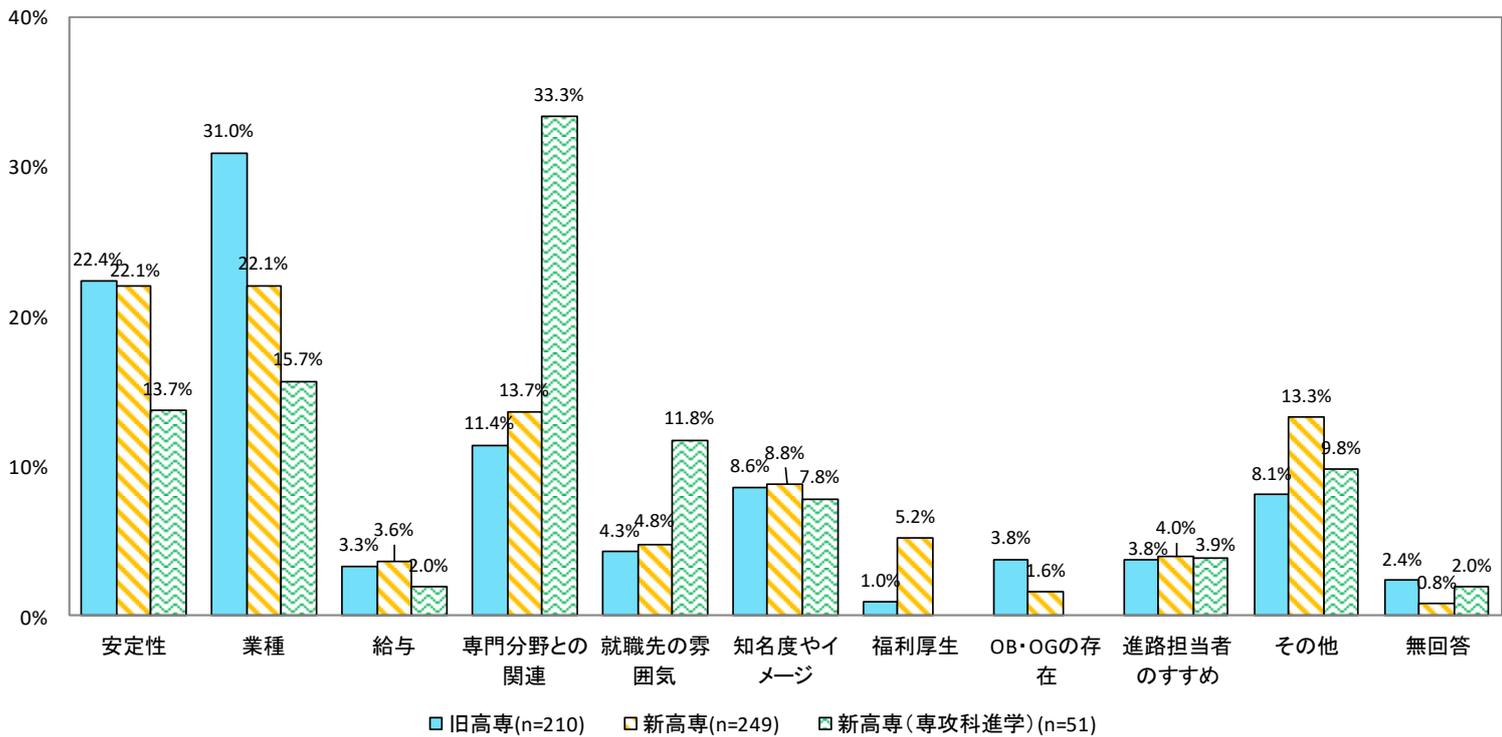
- ・ 就職先や進学先を決定するうえで重視したことについてみると、旧高専、新高専では「業種」が最も高くそれぞれ 56.0%、48.1%である。一方で、新高専（専攻科進学）では「専門分野との関連」が最も高く、47.2%となっている。
- ・ 前回調査と比較すると、前は「安定性」、「業種」を重視する割合が本調査よりも低くなっている（ただし、前回調査は 20 代の時に回答していることに注意）。

図表 2-31 就職先や進学先を決定するうえで重視したこと（複数回答）



- ・ 就職先や進学先を決定するうえで最も重視したことについてみると、旧高专、新高専では「業種(31.0%、22.1%)」、「安定性(22.4%、22.1%)」の順に高い。新高専（専攻科）は「専門分野との関連(33.3%)」、「業種(15.7%)」の順に高い。専攻科進学者は、進路決定において専門分野との関連性を特に重視している。

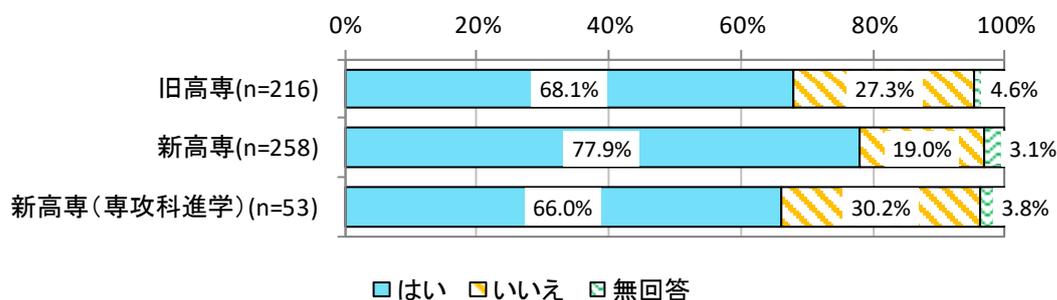
図表 2-32 就職先や進学先を決定するうえで、最も重視したこと



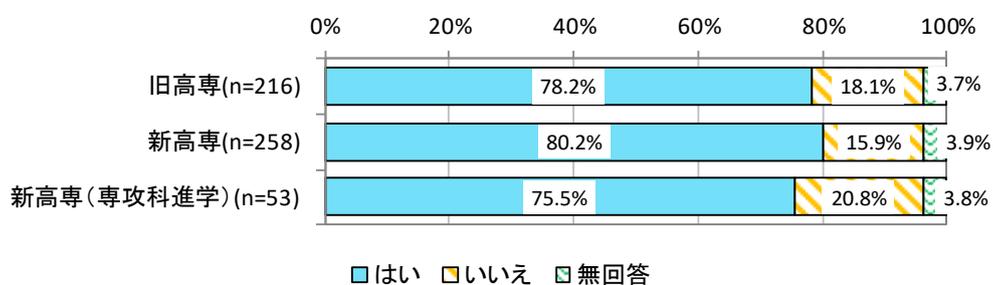
## 2-11 学校の就職・進学支援、卒業後について

- 学校の就職・進学支援が役立ったかどうかをみると、いずれも約70%が「はい」と回答しており、特に新高専では77.9%と「役立った」と感じる割合が高い。
- 卒業後の進路選択に対する満足度をみると、いずれも80%近くが「満足している」と回答している。

図表 2-33 学校の就職・進学支援は役立ったか



図表 2-34 卒業・修了時の自分の進路選択に満足しているか



図表 2-35 卒業・修了後に取得した資格（自由記述）

工事施工管理技士、危険物取扱者 他	クレーンデリック
防火管理者 自動車普通免許 特別管理産業廃棄物管理責任者	クレーン運転士、2級ボイラー技士
第一種情報処理技術者	CCNA、CCNP、第1種陸上特殊無線技師、OpenStackファンダメンタルズ
第2種ME検定(医療機器)	電気工事士一種二種・電検三種
航空整備士	大型自動車運転免許
ガス・アーク溶接関連 玉掛け・床上クレーン	第一級陸上特殊無線技士、第三級海上特殊無線技士
CAD利用技術者	英語検定
技能士 空気圧装置組み立て	QC検定2級
電気通信主任技術者	テクニカルエンジニア(ネットワーク)、テクニカルエンジニア(情報セキュリティ)
MBA	LPIC
高圧ガス製造責任者甲種 エネルギー管理士	移動式クレーン免許、玉掛け、床上操作式クレーン、自由研削砥石
基本情報処理技術者	運転免許、教養知識検定3級、知的財産管理技能士3級
中学校第一種教員免許(保健体育)	第1種電気工事士、1級電気施工管理士、第3種電気主任技術者
動力車操縦者運転免許	一級電気工事施工管理技士
ボイラー技士、機械設計製図、シスアド	第三種電気主任技術者
情報処理ネットワークスペシャリスト	エックス線作業主任者
大型特殊自動車免許、普通自動二輪車免許	普通自動二輪、小型船舶操縦士1級、衛生管理者
一級陸上特殊無線技士	技術士、施工管理技術者、溶接管理技術者
航空機工場検査員	第一種衛生管理者、乙種第2類危険物取扱者、乙種第4類危険物取扱者
クレーン運転、低圧電気、粉じん	機械検査1級
ビル管理者	高圧ガス製造保安責任者
電気工事士AI-DD総合種	Oracle Certified Java Programmer, Silver SE 8
ITパスポート	運転操縦関係、整備関係、危険物など
第3種電気主任技術者、1級電気施工管理技士	エネルギー管理士、陸上特殊無線技師
酸欠、特化則	工事担任者DD1種、CCNA
一等航空運行整備士(飛行機)	1級管工事施工管理技士
大型自動車運転免許	危険物取扱、火薬類保安責任者
看護師国家資格	TOEIC
電気通信主任技術者、第一級陸上無線技術士	危険物取扱者、CISTEC
電験三種、一級計装士、TOEIC、ITパスポート、VEリーダー	高所作業車
無線従事者免許	中型運転免許証
2級小型船舶操縦士	第一級陸上特殊無線、CCNP、LPICレベル2、第二種電気工事士
Apple Certified Mac Technician、Apple Certified iOS Technician	MOS
溶接管理技術者1級	機会設計技術者試験3級、技術士第一次試験合格、QC検定3級
有機溶剤取扱主任技術者	電気通信主任技術者、情報セキュリティスペシャリスト
家電エンジニア、冷媒回収、販売士、	陸上特殊無線3級、列車見張員
電気施工管理、建設系の技能講習	2級管工事施工管理技士
甲種危険物、熱管理士、TOEIC	管工事施工管理
フォークリフト運転者、床上操作式クレーン運転士、玉掛作業者	工事担任者デジタル種、電気工事士
危険物取り扱い 高圧ガス	宅地建物取引主任者
普通自動車免許	福祉住環境コーディネーター
電気通信主任技術者、電気通信工事担任者、情報処理技術者	システム監査技術者、航空無線通信士、弁理士
知的財産管理技能士	1級自動ドア施工技能士
玉掛け、クレーン操作	一等航空整備士
高度情報処理技術者試験(ネットワーク・セキュリティ)	公害防止管理、危険物取扱者管理
簿記	ITILファンデーション
電験三種、電気施工管理一級、建築物環境衛生管理技術者	介護福祉士
x線作業主任者	無線技士
第一級陸上無線技術士、電気工事士	初級システムアドミニストレーター、第一級陸上特殊無線技士
一級建築士	プラスチック射出成形技能士準2級
情報セキュリティマネジメント	一級建築施工管理技師
無人航空従事者試験3級	航空工場検査員、衛生管理者

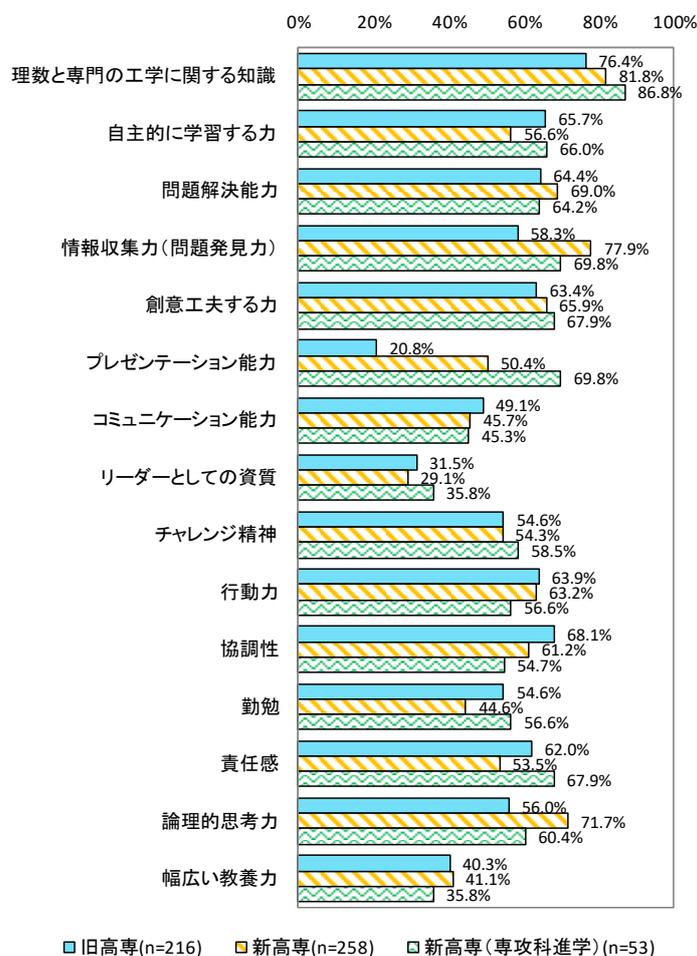
図表 2-36 今後必要と思われる資格（自由記述）

MBA	QC検定
航空整備士	第三種電気主任技術者
衛生管理者 防火管理者	陸上特殊無線技師
ビジネスマネージャー	中小企業診断士
応用情報処理技術者	宅建
工事担任者総合種	ビル設備管理技術者資格
下水道三種	経理
第3種電気主任技術者	ボイラー技士、冷凍機械責任者
危険物乙種第四類・第2種電気工事士・第3種電気主任技術者	ロボット安全資格(ロボット・セーフティアセッサ資格)
玉掛け、知財	1種衛生管理士
簿記	AWS関連資格
国家資格(公害防止管理者など)	管工事施工管理、建築士
自動車整備士	ドットコムマスター
品質管理検定3級	機械検査技能士
エネルギー管理士	有機溶剤
危険物、高圧ガス、ボイラー整備士	玉掛け、航空無線通信士、その他諸々
一等航空整備士(飛行機)	基本情報処理技術者、応用情報処理技術者
英語以外の語学	ccna
ボイラー技士、工事担任者	大型運転免許証
溶接管理技術者特級	シグナルエンジニア
電気工事士、フォークリフト、危険物	電気工事士、電気通信主任技術者、応用情報技術者試験
IT系の資格	電工一種、設備管理
建築物環境衛生管理技術者	1級管工事施工管理技士
プラスチック成形技能士	基本情報技術者
一級建築士	大型自動二輪免許
AIDD総合種	第1級陸上特殊無線技士
技術士、行政書士	クレーン、玉掛け
PMP	英検
中型自動車免許	船舶無線、船舶免許
英会話能力	機械保全技能士、機械設計技術者、自主保全士
基本情報、応用情報	コンサルティング
情報処理安全確保支援士	上級バーチャルリアリティ技術者
実務的な資格全般	施工管理技士
放射線取扱主任者	電験、施工管理技士
第一種電気工事士など	税理士
CCIE、第1種陸上無線技術士	プロジェクトマネージャー
電検二種	TOEFL
第一級陸上無線技術士	CCNP
防犯設備士、基本情報技術者試験、データベーススペシャリスト	電気工事主任技術者
輸出輸入通関士	TOEIC
機械設計技術士	ITパスポート
デジタル技術検定	LPIC
火薬関係	高度情報処理技術者試験合格証書

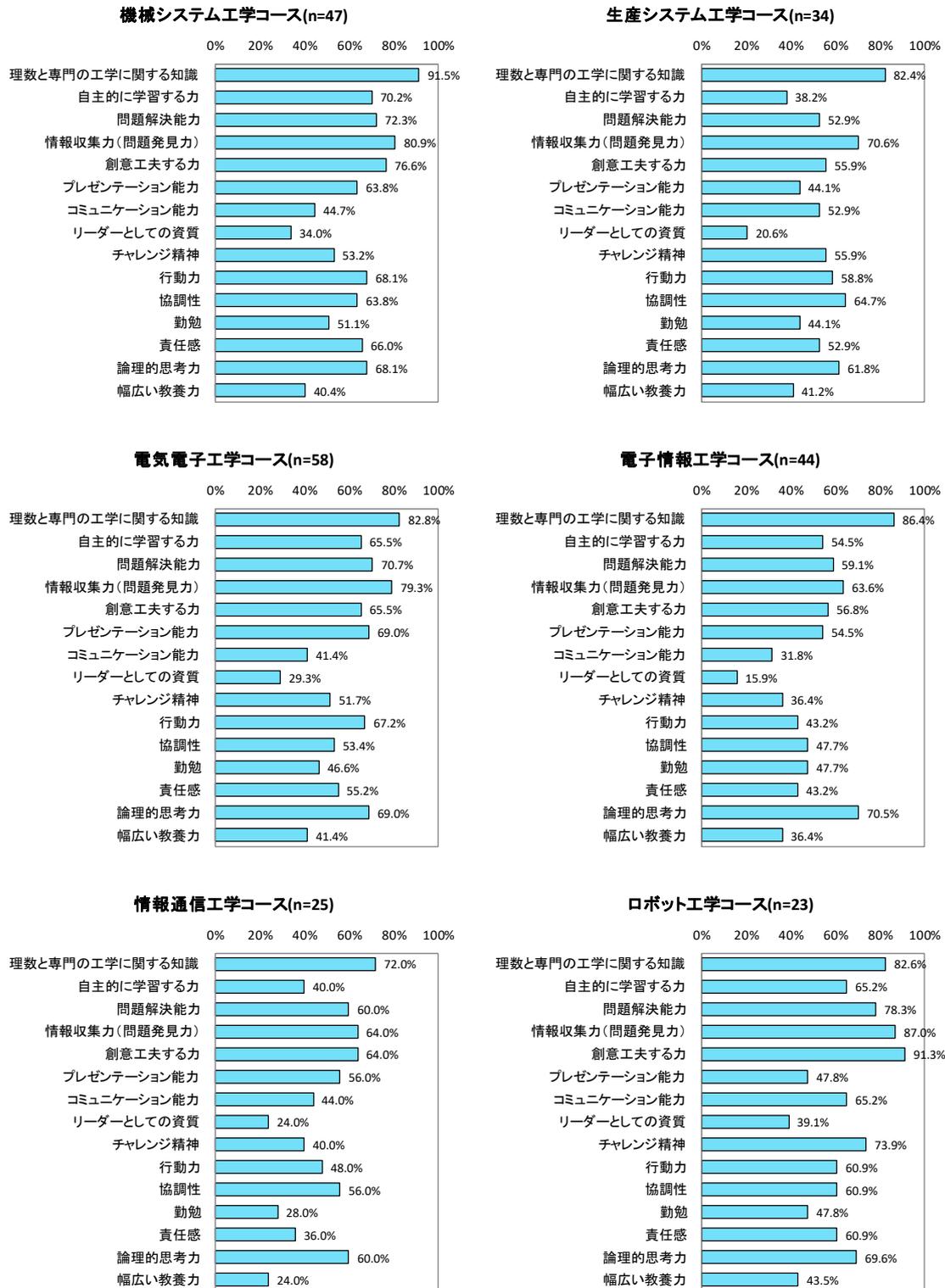
## 2-12 産技高専の教育について

- 本校で学んで身に付いたことについて、「十分身に付いた」と「ある程度身に付いた」の合計値をみると、いずれも「理数と専門の工学に関する知識」が最も高い。
- 旧高専では次いで「協調性(68.1%)」、「自主的に学習する力(65.7%)」が高く、新高専では「情報収集力(77.9%)」、「論理的思考力(71.7%)」、新高専（専攻科進学）では「情報収集力(69.8%)」と「プレゼンテーション能力(69.8%)」、「創意工夫する力(67.9%)」の順に高くなっている。
- 「プレゼンテーション能力」は新高専（専攻科進学）(69.8%)で特に割合が高く、次いで新高専(50.4%)、旧高専(20.8%)となっている。特に、専攻科については、学会発表等の成果が出ていると言える。

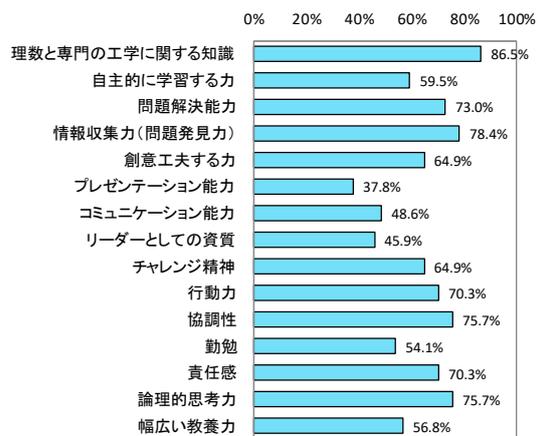
図表 2-37 産技高専で学んで身に付いたこと（十分身に付いた＋ある程度身に付いた）



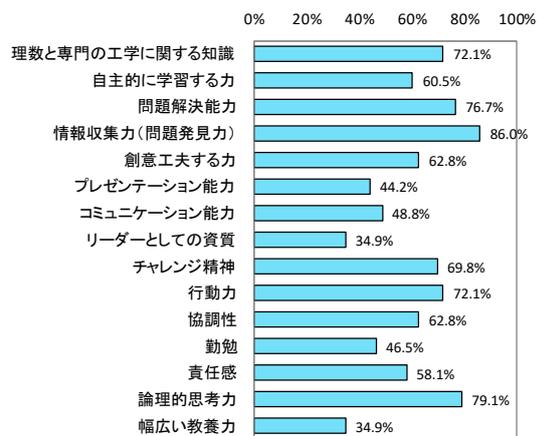
図表 2-38 産技高専で学んで身に付いたこと（十分身に付いた+ある程度身に付いた）  
（新高専・コース別）



航空宇宙工学コース(n=37)

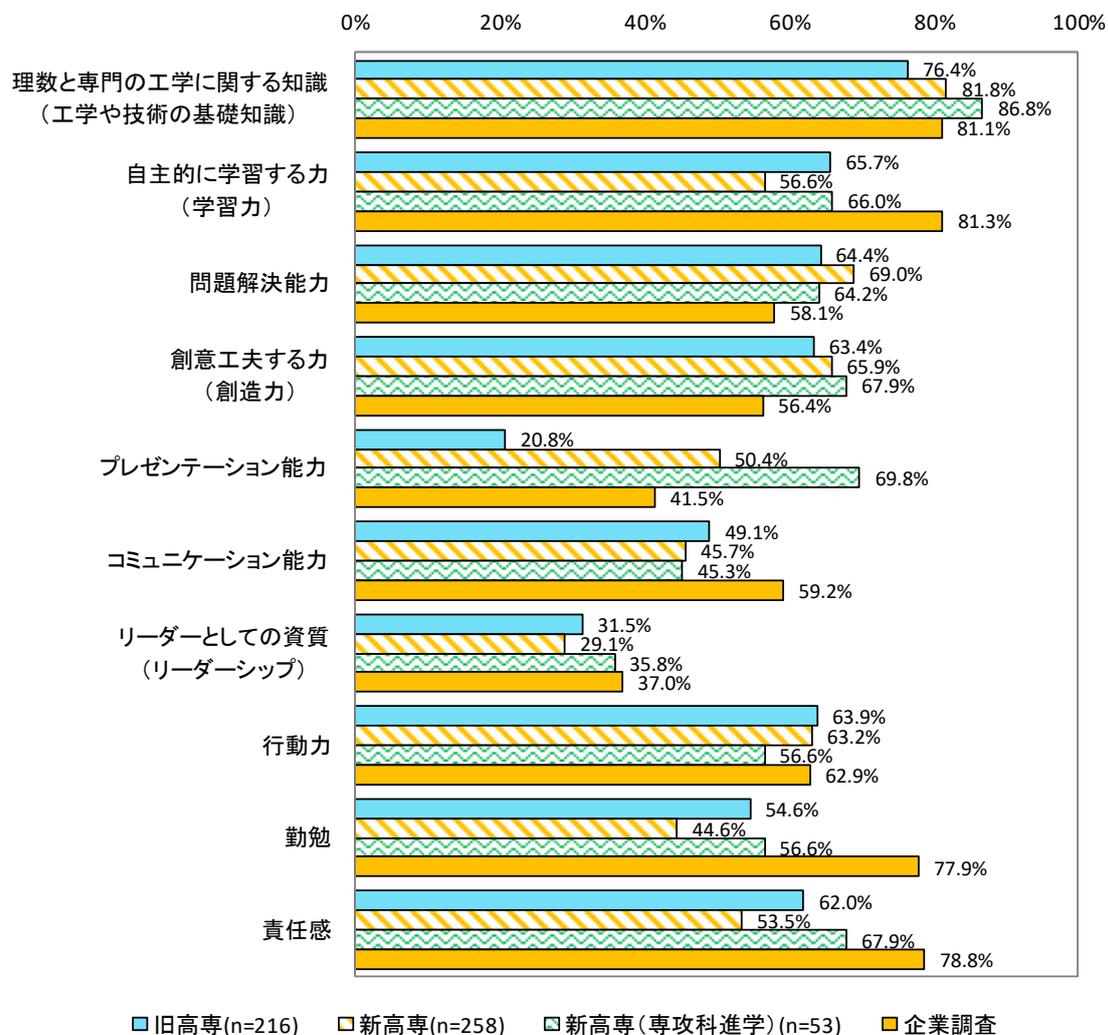


医療福祉工学コース(n=43)



- 「卒業生及び東京都立産業技術高等専門学校に関する企業の意識調査」(平成 29 年度)の「本校卒業生についての評価(本科)」(大いにある+ある)の割合を、本調査の「本校で学んで身に付けたこと」(十分身に付いた+ある程度身に付いた)の共通項目と比較した。
- 「理数と専門の工学に関する知識(工学や技術の基礎知識)」は、本校卒業生の自己評価と企業による評価でともに割合が高くなっている。
- 「自主的に学習する力」、「勤勉」、「責任感」については自己評価よりも企業評価のほうが割合が高い。

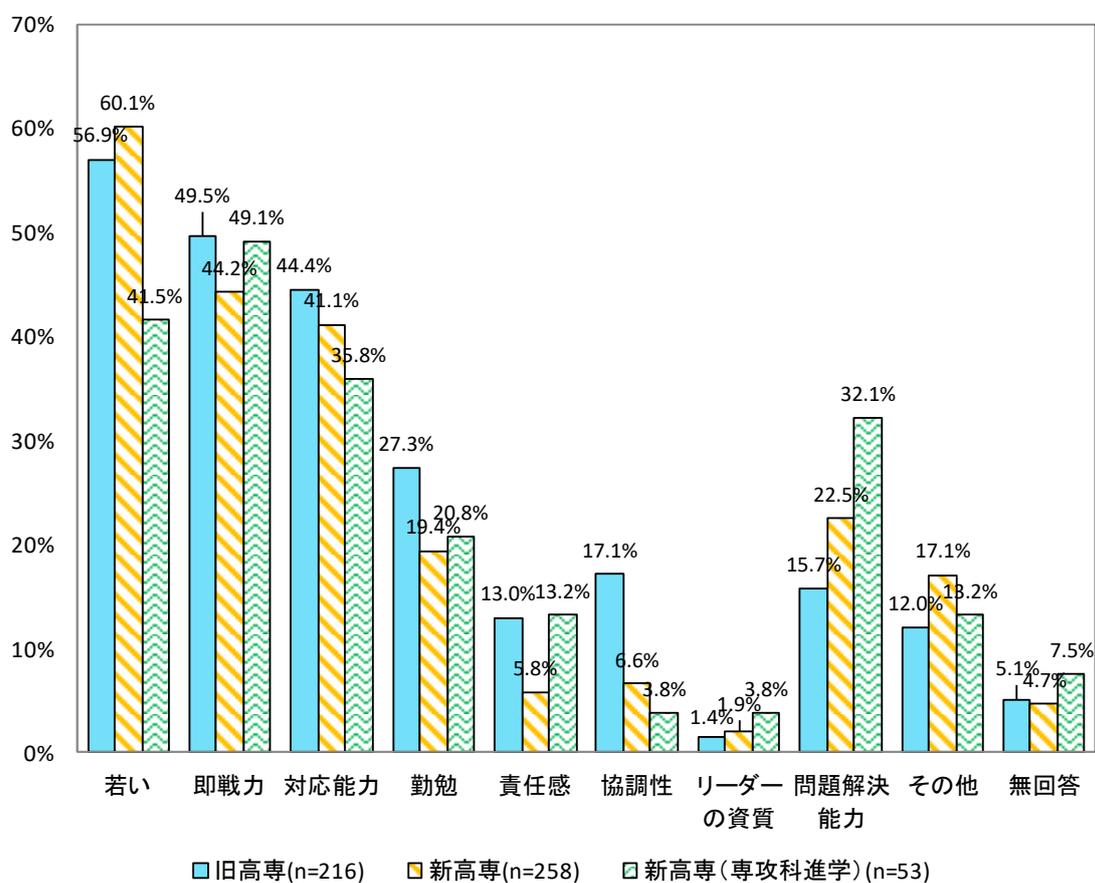
図表 2-39 産技高専で学んで身に付いたこと(前回企業調査との比較)



## 2-13 大学卒業生と比較した高専生の魅力について

- ・ 大学卒業生と高専生を比較すると、全体的に「若い」、「即戦力」、「対応能力」が高専生の魅力であるという結果になっている。
- ・ 新高専（専攻科進学）のみ、「即戦力」が最も高くなっている。
- ・ 「協調性」については旧高専が 17.1%、「問題解決能力」は新高専（専攻科進学）が 32.1%と、他の 2 者よりも高くなっている。

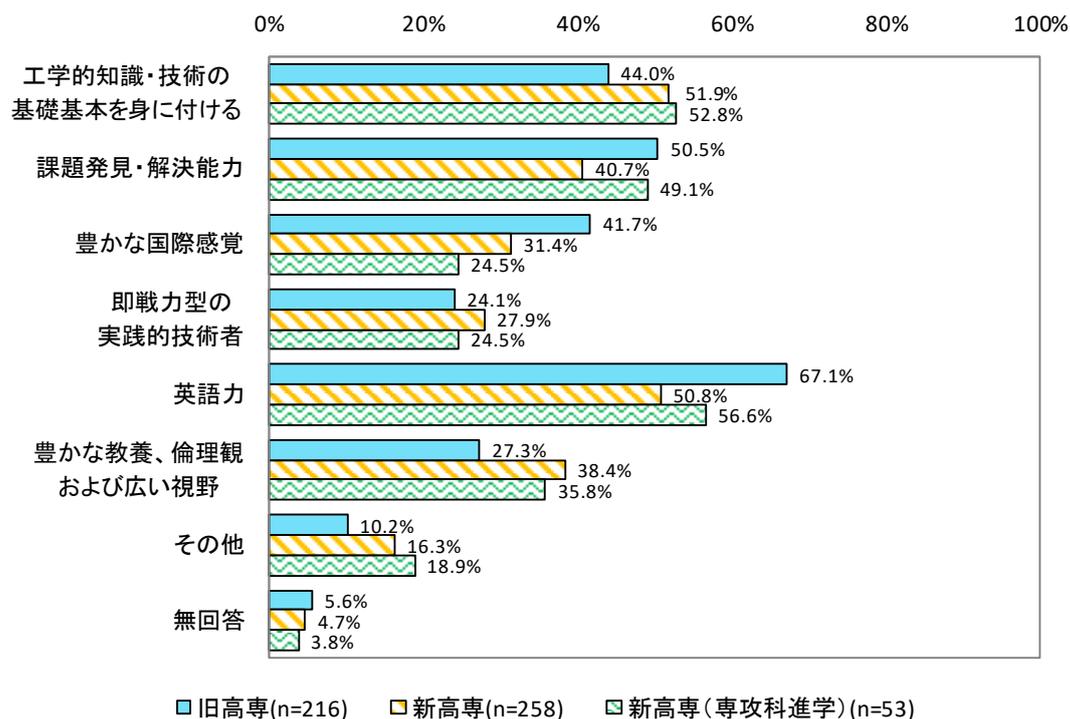
図表 2-40 大学卒業生と比較した高専生の魅力（複数回答）



## 2-14 教育で今後必要になることや強化すべき点

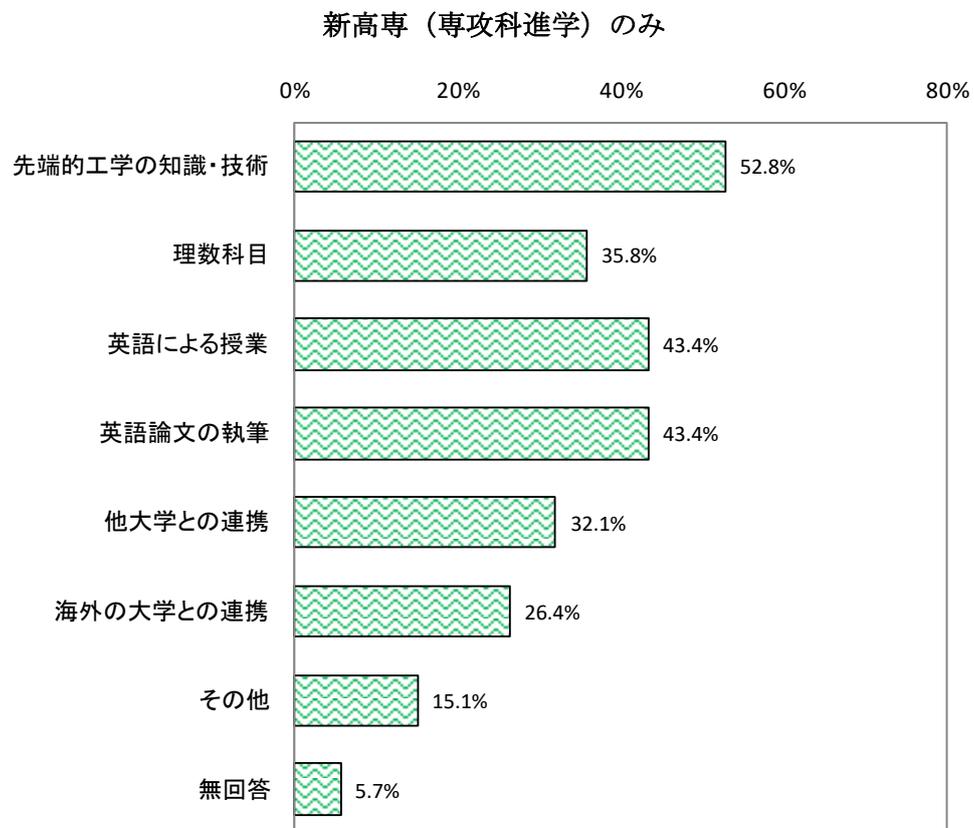
- ・ 本科教育で今後必要になることや強化すべき点についてみると、旧高専では「英語力(67.1%)」の割合が最も高い。続いて「課題発見・解決能力(50.5%)」、「工学的知識・技術の基礎基本を身に付ける(44.0%)」となっている。
- ・ 新高専では「工学的知識・技術の基礎基本を身に付ける(51.9%)」、「英語力(50.8%)」が約五割、続いて「課題発見・解決能力(40.7%)」となっている。
- ・ 旧高専では、「豊かな国際感覚」、「英語力」を強化すべきと考える割合が他よりも高い。
- ・ 新高専、新高専（専攻科進学）では、「工学的知識・技術の基礎基本を身に付ける」、「豊かな教養、倫理観及び広い視野」を強化すべきと考える割合が旧高専よりも高くなっている。

図表 2-41 本科教育で今後必要になることや強化すべき点（複数回答）



- ・ 専攻科教育で今後必要になることや強化すべき点について、新高専（専攻科進学）の回答をみると、「先端的工学の知識・技術」が 52.8%と最も割合が高い。
- ・ 次いで、「英語による授業」、「英語論文の執筆」がともに 43.4%と高くなっており、英語に関する教育を重視していることがわかる。

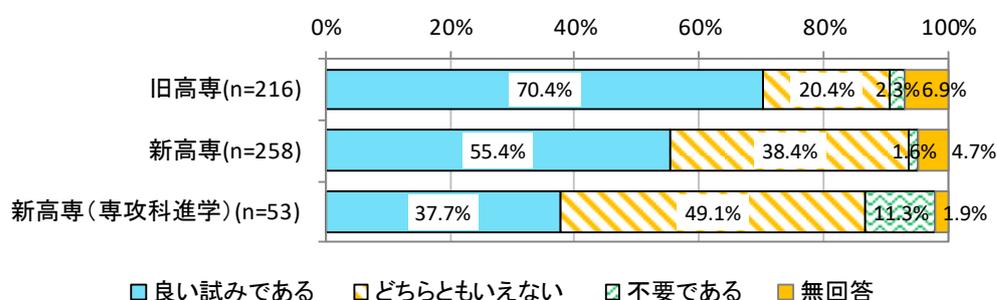
図表 2-42 専攻科教育で今後必要になることや強化すべき点（複数回答）（n=53）



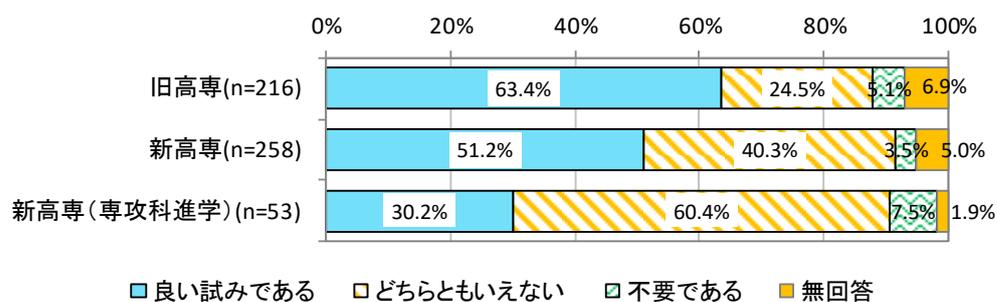
## 2-15 教育プログラムについて

- ・ 情報技術セキュリティ技術者育成プログラムについてどう思うかをみると、旧高専では約70%、新高専で55.7%、新高専（専攻科進学）で37.7%が「良い試みである」と回答している。
- ・ 航空技術者育成プログラムについても、旧高専では60%強、新高専は51.2%、新高専（専攻科進学）では30.2%が「よい試みである」と回答している。いずれのプログラムも、社会人経験が長いほど良い試みだと評価されている。

図表 2-43 新設の情報セキュリティ技術者育成プログラムについてどう思うか

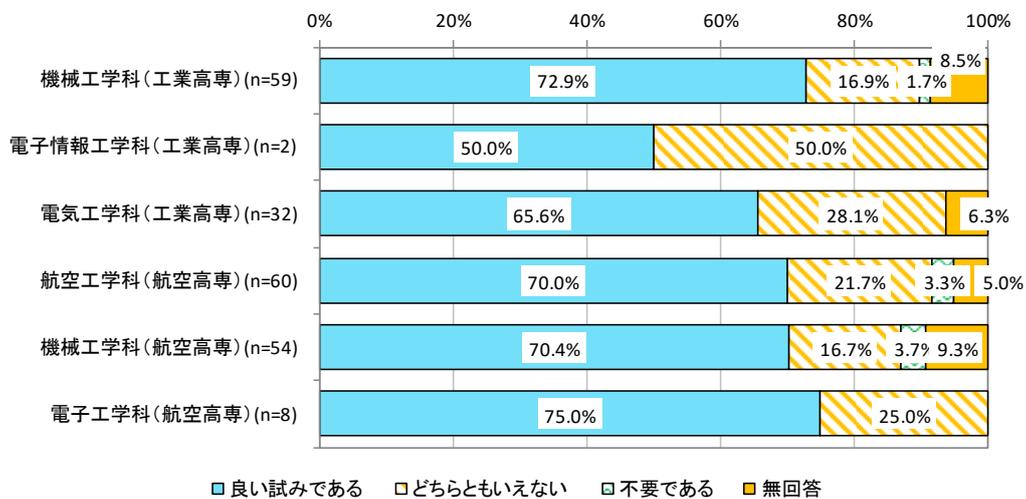


図表 2-44 新設の航空技術者育成プログラムについてどう思うか

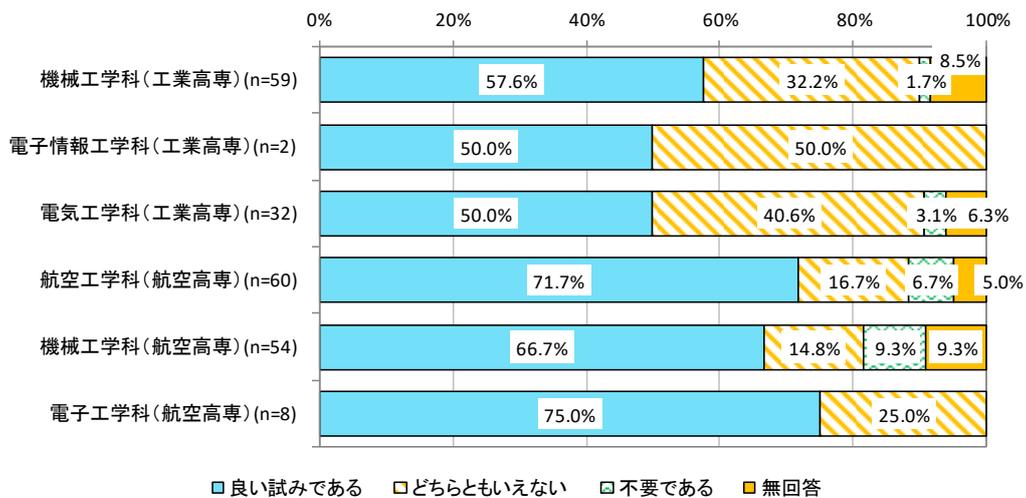


- 新設のプログラムについてどう思うかを旧高専の卒業学科別にみると、「情報セキュリティ技術者育成プログラム」については「良い試みである」が「電子工学科（航空高専）」、「機械工学科（航空高専）」、「航空工学科（航空高専）」、「機械工学科（航空高専）」で70%以上となっている。
- 航空技術者育成プログラムについては、「電子工学科（航空高専）」と「航空工学科（航空高専）」で「良い試みである」が70%以上である。

図表 2-45 新設の情報セキュリティ技術者育成プログラムについてどう思うか  
(卒業学科別)

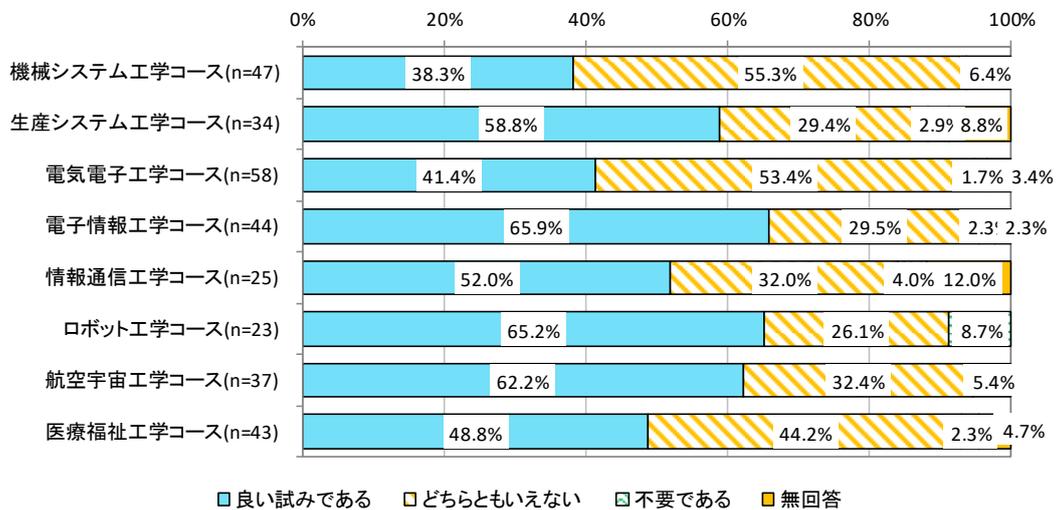


図表 2-46 新設の航空技術者育成プログラムについてどう思うか (卒業学科別)

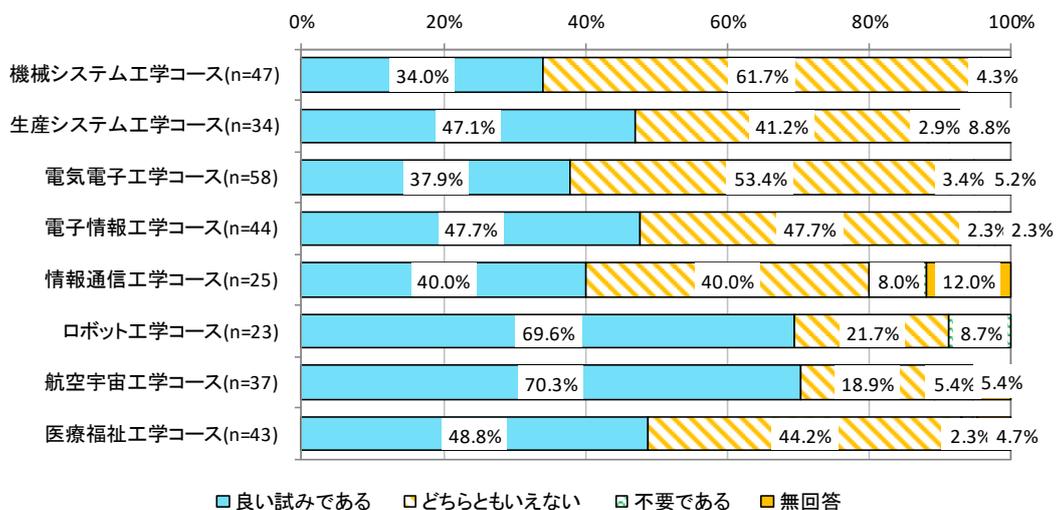


- 新設のプログラムについてどう思うかを新高専の卒業コース別にみると、情報セキュリティ技術者育成プログラムについて「良い試みである」と考えるのは「電子情報工学コース(65.9%)」と「ロボット工学コース(65.2%)」で60%以上となっている。
- 航空技術者育成プログラムについては、「ロボット工学コース(69.6%)」と「航空宇宙工学コース(70.3%)」で約70%が「良い試みである」と回答している。

図表 2-47 新設の情報セキュリティ技術者育成プログラムについてどう思うか  
(卒業コース別)

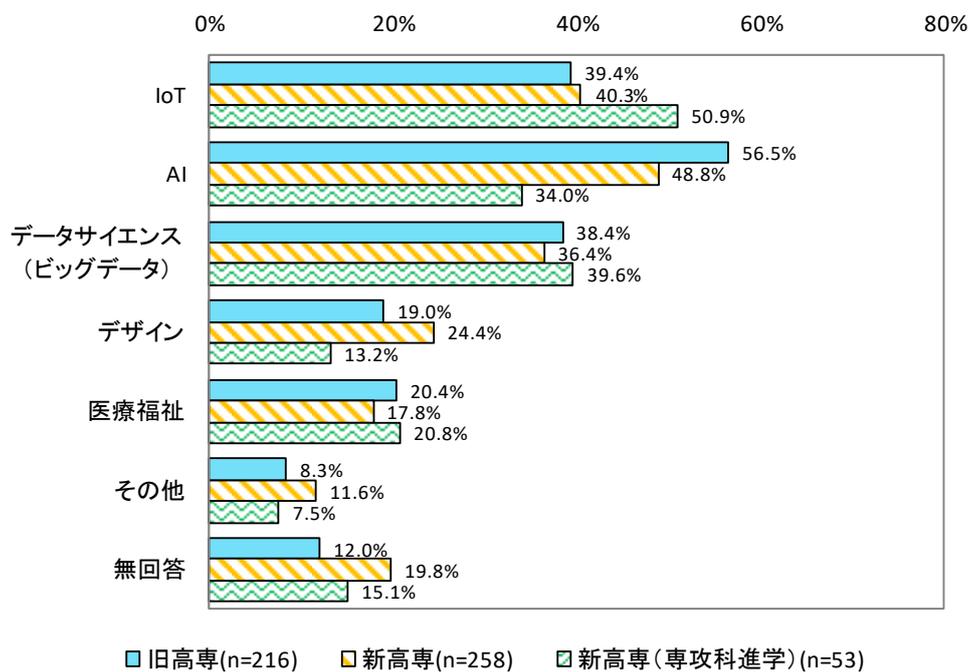


図表 2-48 新設の航空技術者育成プログラムについてどう思うか (卒業コース別)



- 他に必要な教育プログラムとしては、旧高専、新高専は「AI」の割合が最も高く、新高専（専攻科進学）では「IoT」の割合が最も高かった。Society 5.0 の実現に欠かせない AI や IoT、データサイエンスに関する項目に対するニーズが高いことがわかる。

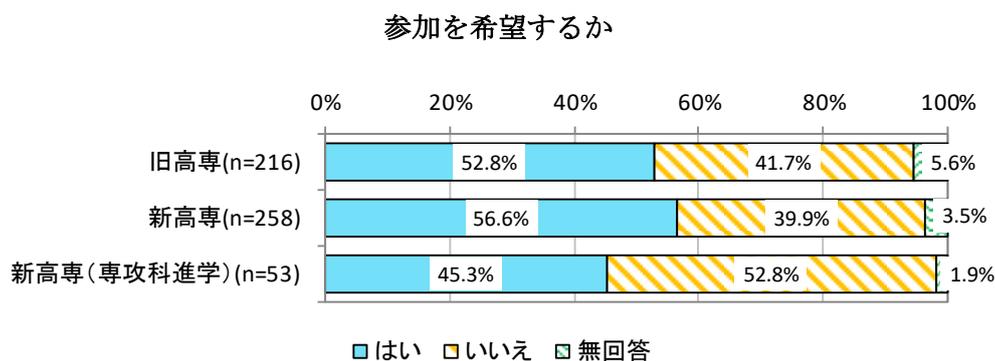
図表 2-49 上記 2 プログラム以外に必要な教育プログラム（複数回答）



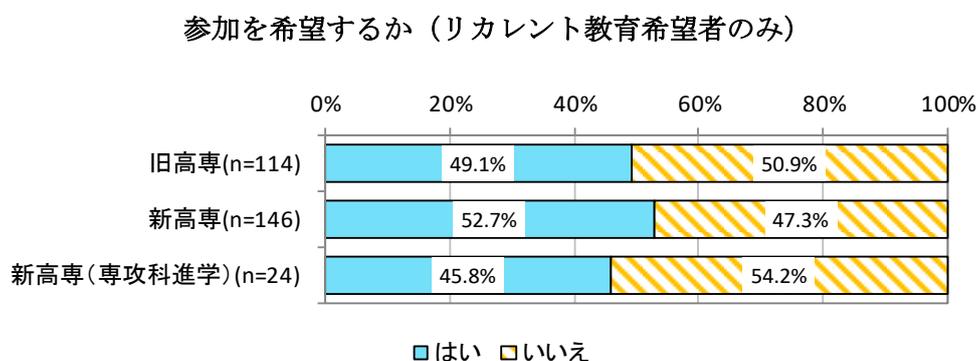
## 2-16 リカレント教育について

- ・ リカレント教育への参加希望についてみると、いずれも半数程度が参加を希望している。
- ・ リカレント教育への参加希望者に、情報技術者育成プログラムのリカレント教育への参加希望有無を聞くと、いずれも約半数が参加を希望している。
- ・ 情報技術者育成プログラムでリカレント教育を実施した場合の妥当な受講料については、旧高専・新高専で「32,400円」が約半数を占め、「48,600円」が約30%である。新高専（専攻科卒）では「48,600円(36.4%)」のほうが「32,400円(27.3%)」よりやや割合が高い。
- ・ リカレント教育を実施した場合の開催時期・曜日について希望を聞くと、「土日」を希望する割合が高い。

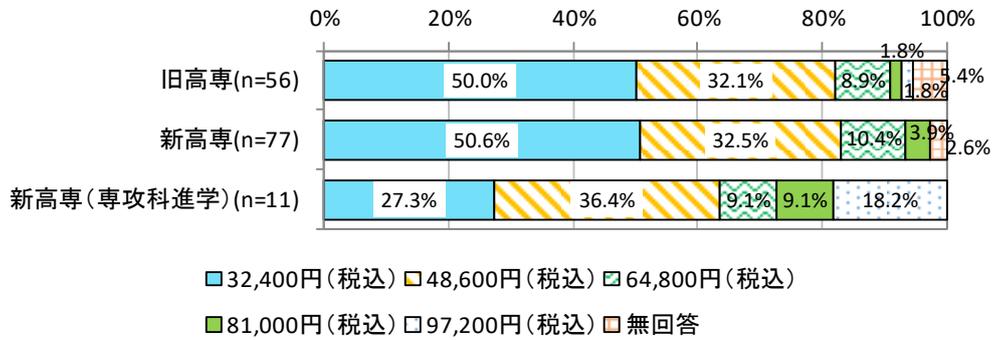
図表 2-50 リカレント教育など、産技高専で学び直しの学習機会があった場合、



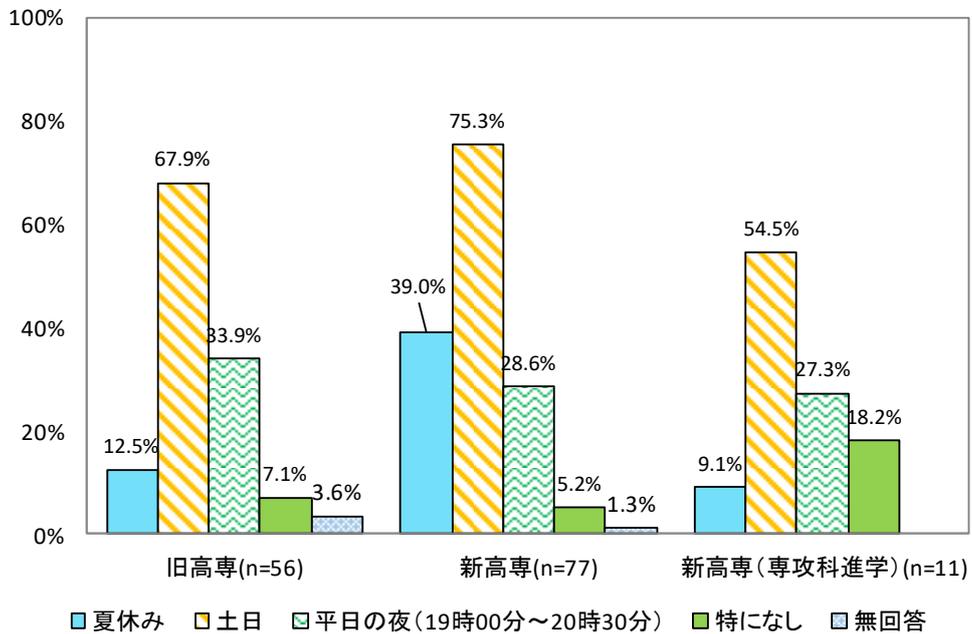
図表 2-51 情報技術者育成プログラムでリカレント教育を実施した場合、



図表 2-52 情報技術者育成プログラムでリカレント教育を実施した場合の妥当な受講料  
(リカレント教育希望者のみ)



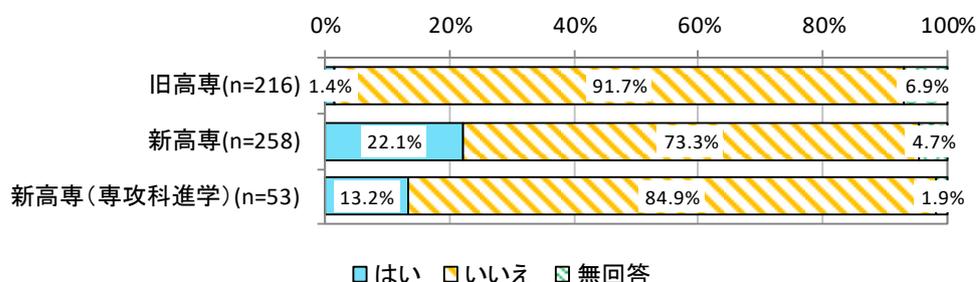
図表 2-53 情報技術者育成プログラムでリカレント教育を実施した場合の  
開催時期・曜日の希望 (リカレント教育希望者のみ) (複数回答)



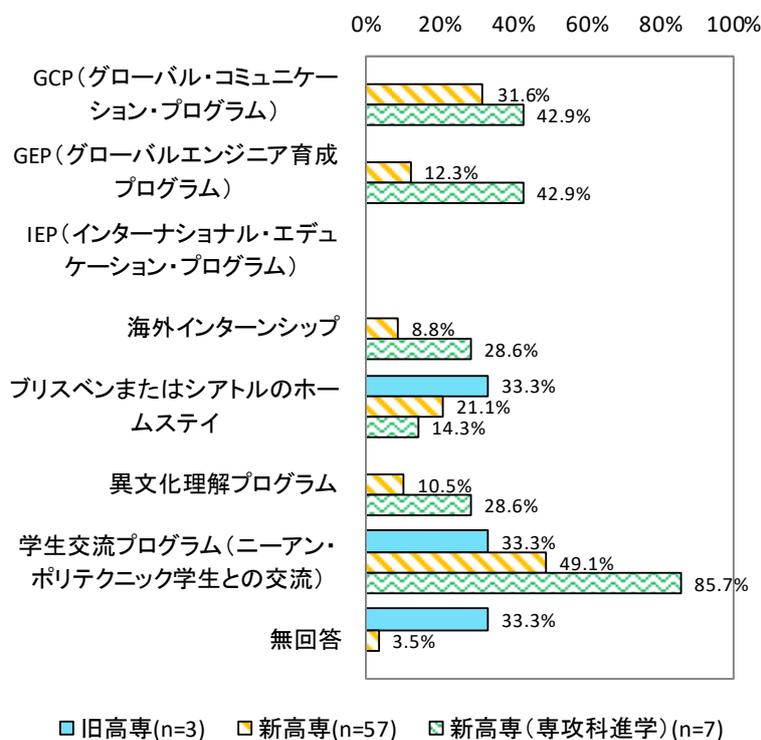
## 2-17 国際化事業について

- ・ 国際化事業への参加経験を聞くと、参加した割合は、新高専では 22.1%、新高専（専攻科進学）では 13.2%となっている。
- ・ 国際化事業で参加したプログラムは、新高専は「学生交流プログラム(49.1%)」の割合が最も高く、次いで「GCP(31.6%)」となっている。新高専（専攻科進学）では「学生交流プログラム(85.7%)」が最も高い。
- ・ 国際化事業参加者に、海外での勤務に積極的に参加しているか（学生は参加したいか）を聞くと、新高専で約 40%が「参加したい」と回答している。

図表 2-54 産技高専が実施する国際化事業への参加有無

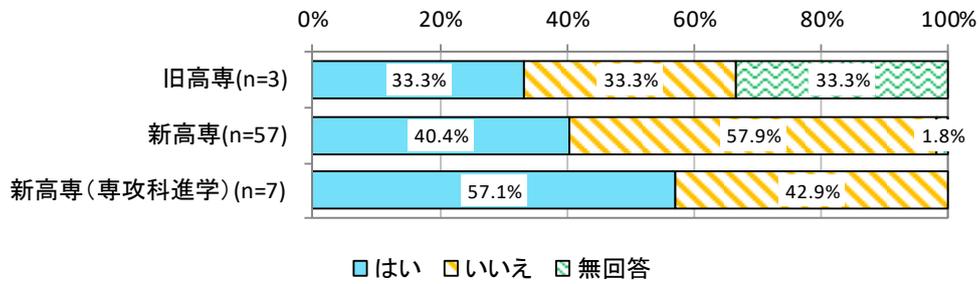


図表 2-55 国際化事業で参加したプログラム（国際化事業参加者のみ）（複数回答）



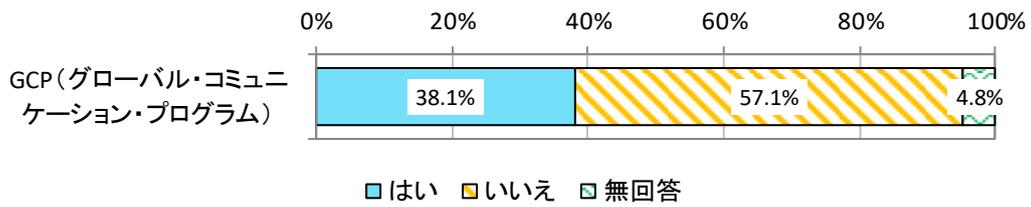
図表 2-56 海外での勤務に積極的に参加しているか（学生は参加したいか）

（国際化事業参加者のみ）



図表 2-57 海外での勤務に積極的に参加しているか（学生は参加したいか）

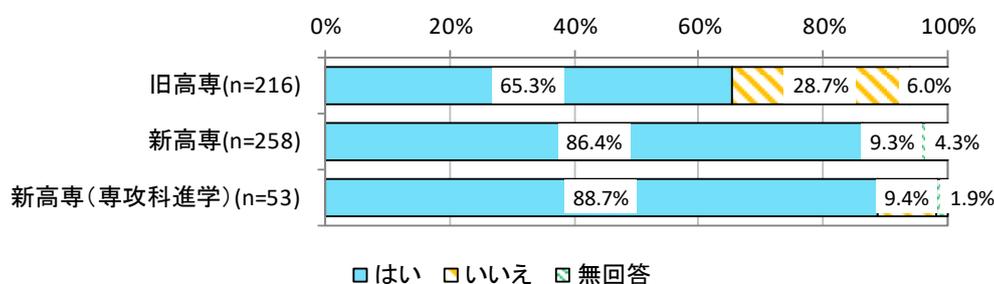
（GCPに参加した人のみ）（n=21）



## 2-18 卒業後の仕事や暮らしについて

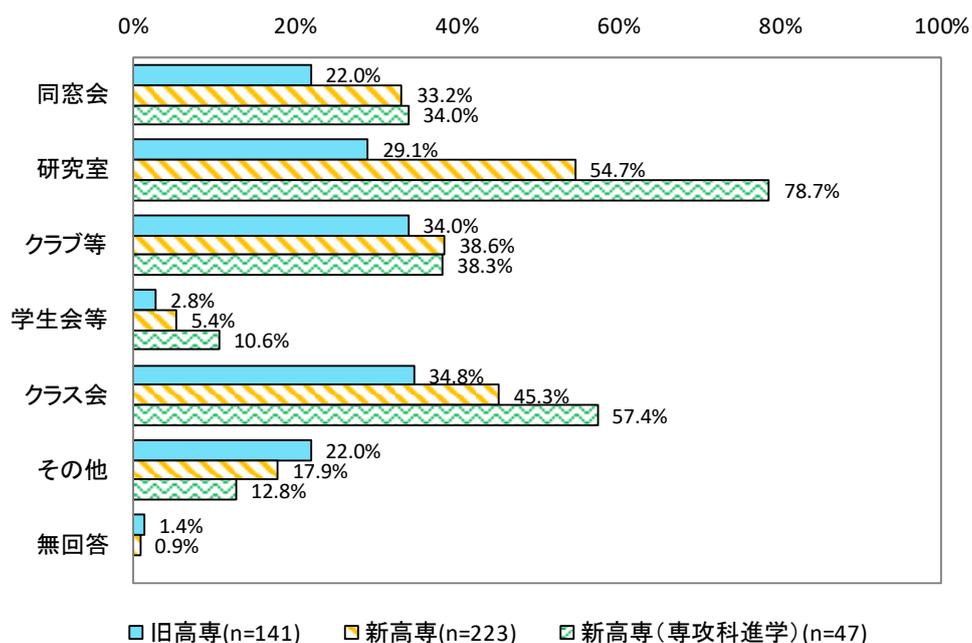
- 卒業後に高専時代の友人や教員を取り合っているのは、旧高専で 65.3%、新高専で 86.4%、新高専（専攻科進学）で 88.7%であり、卒業時期が直近なほど割合が高い。
- 連絡を取り合っている友人や教員のネットワークについては、旧高専では「クラス会(34.8%)」、「クラブ等(34%)」、「研究室(29.1%)」の順になっている。新高専では「研究室(54.7%)」が最の割合が高く、次いで「クラス会(45.3%)」、「クラブ等(38.6%)」となっている。

図表 2-58 卒業後も高専時代の友人や教員と連絡を取り合っているか



図表 2-59 連絡を取り合っている友人や教員はどのようなネットワークにあるか

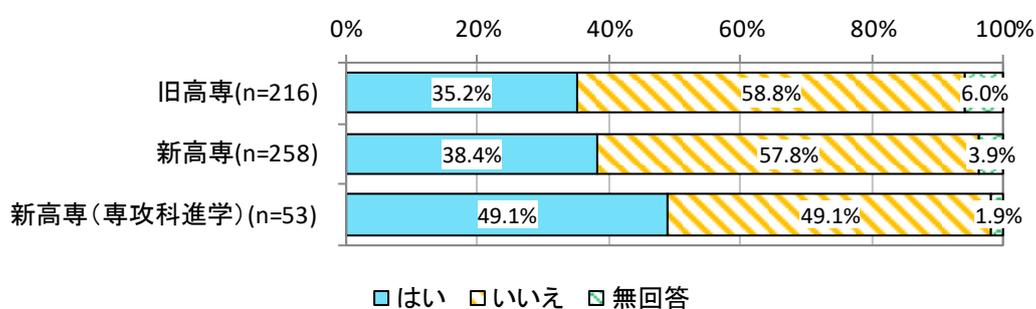
(連絡を取り合っている人のみ) (複数回答)



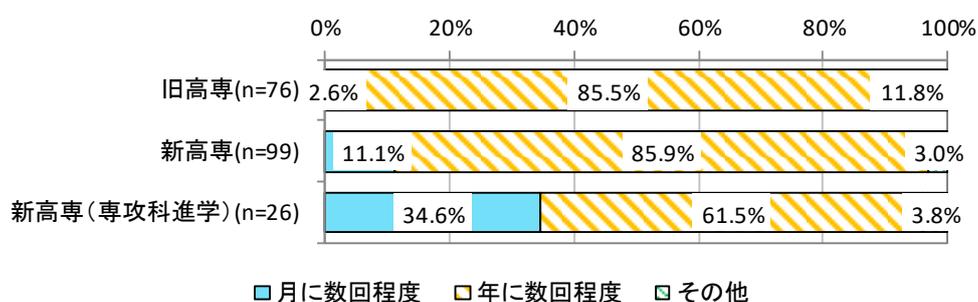
## 2-19 ホームページについて

- ・ ホームページの閲覧状況についてみると、閲覧していると回答した割合は、現役の学生が多い新高専（専攻科進学）では49.1%と約半数が閲覧している。旧高専で35.2%、新高専では38.4%となっている。
- ・ ホームページを閲覧する頻度は、旧高専・新高専ともに「年数回程度」が約85%である。一方、新高専（専攻科進学）では、「年に数回程度(61.5%)」「月に数回程度(34.6%)」であり、閲覧する頻度がやや高い。

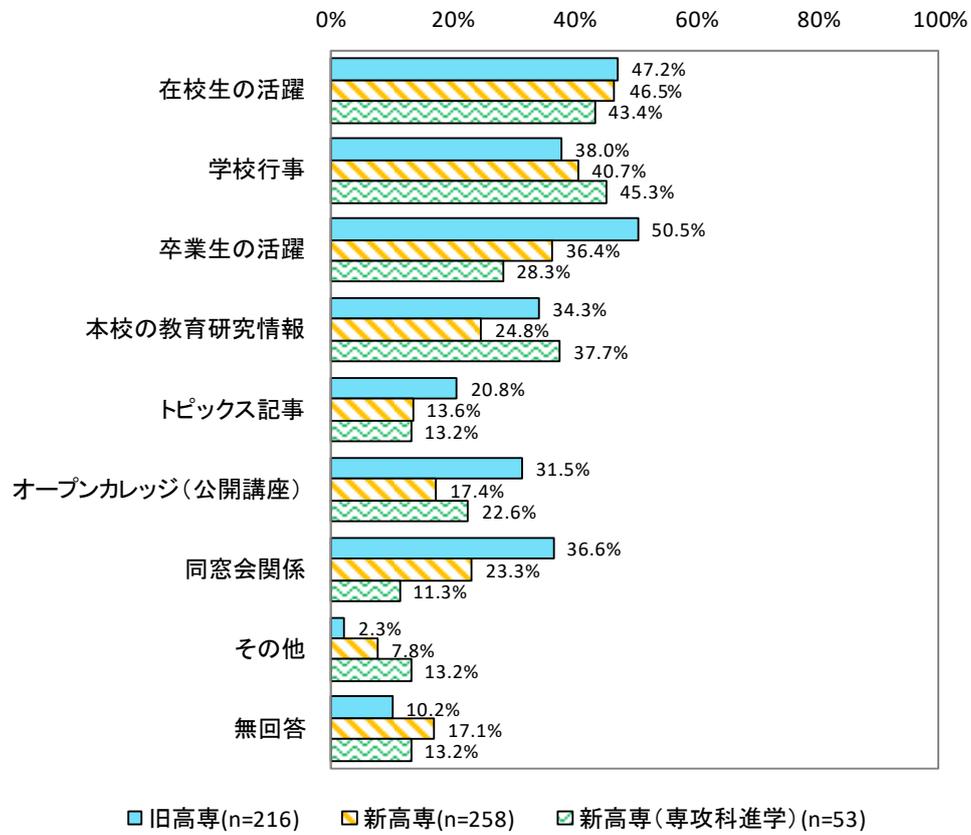
図表 2-60 産技高専のホームページを閲覧するか



図表 2-61 産技高専のホームページを閲覧する頻度（閲覧している人のみ）



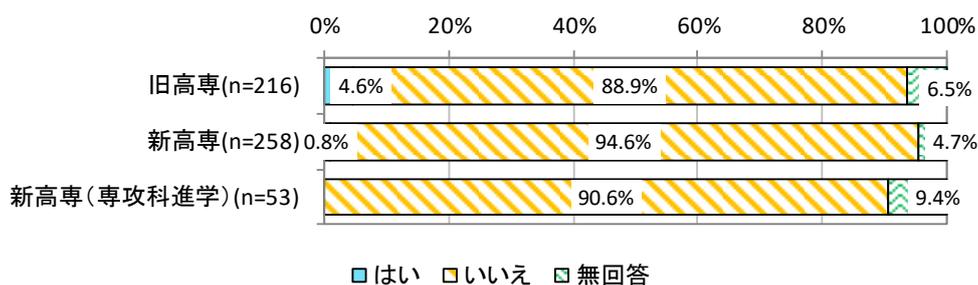
図表 2-62 産技高専のホームページに期待する内容（複数回答）



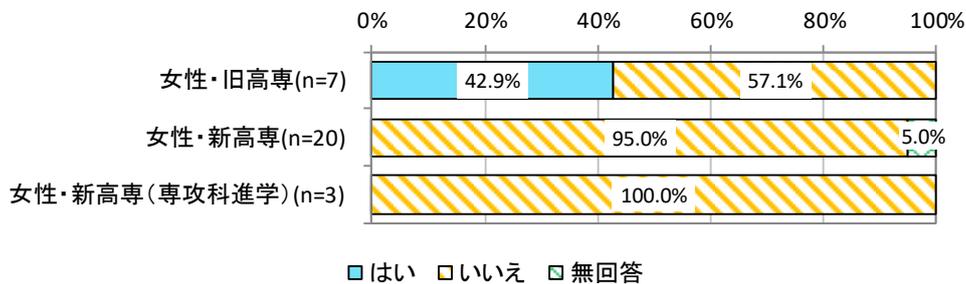
2-20 職場の環境について

・ 結婚、出産、子育て、介護等をきっかけに仕事を退職したことがあるかについては、旧高専の女性では約40%が退職の経験があると回答している。

図表 2-63 結婚、出産、子育て、介護等をきっかけとして仕事を退職したことがあるか

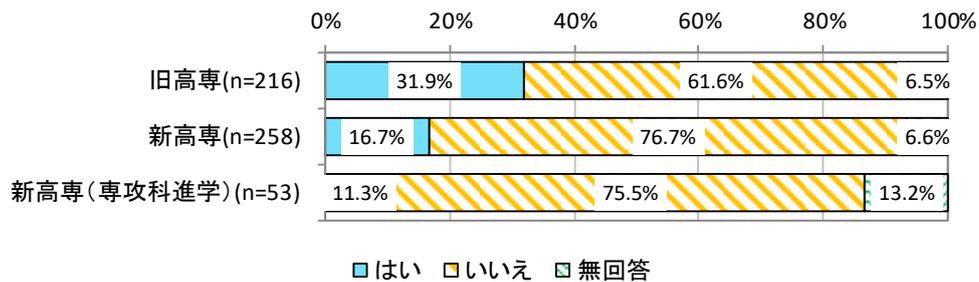


図表 2-64 結婚、出産、子育て、介護等をきっかけとして仕事を退職したことがあるか  
(女性)

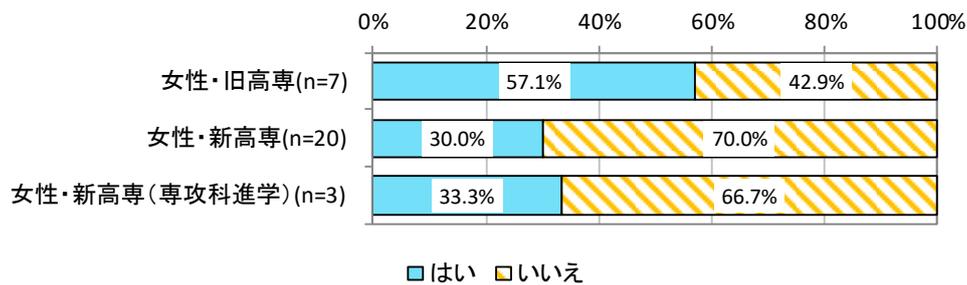


- 現在の職場の待遇等で男女差を感じるかについては、旧高专では約 30%、旧高专の女性は 57.1%が「はい」と回答しており、年代が上の女性のほうが待遇等で男女差を感じていることがわかる。

図表 2-65 現在の職場において、待遇等で男女差を感じるか



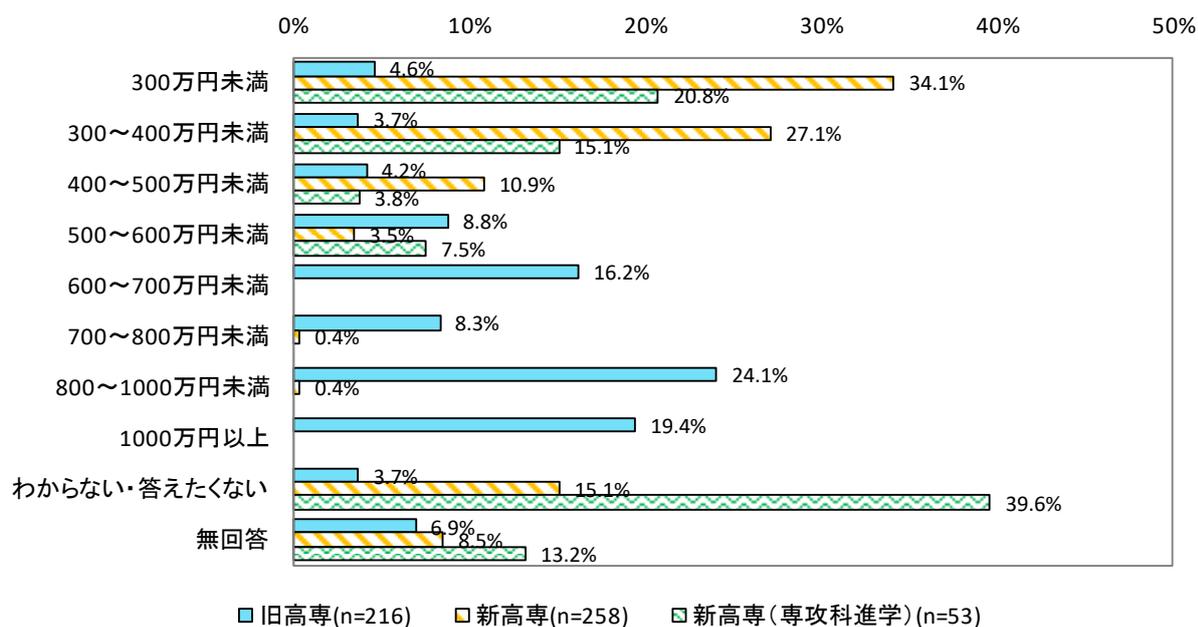
図表 2-66 現在の職場において、待遇等で男女差を感じるか (女性)



## 2-21 年収について

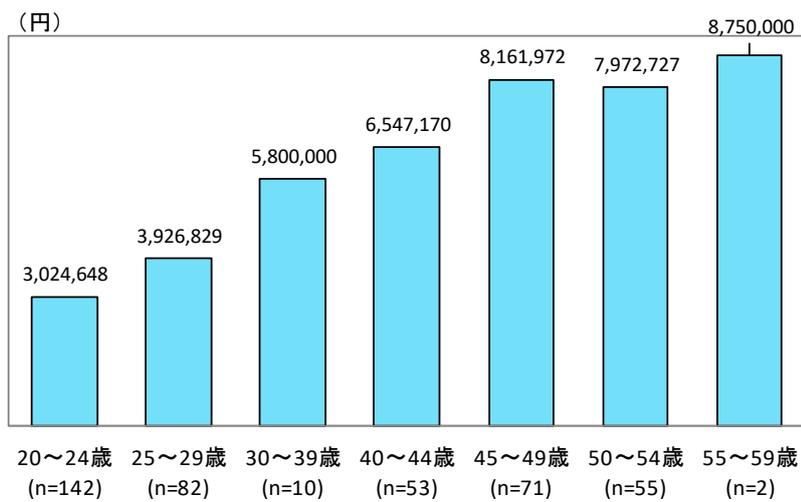
- 2017年度の年収についてみると、旧高専は「800万～1000万(24.1%)」、「1,000万以上(19.4%)」、「600万～700万(16.2%)」の順に多く、新高専では「300万円未満(34.1%)」、「300万～400万円未満(27.1%)」の順に多くなっている。

図表 2-67 2017年(平成29年)の年収

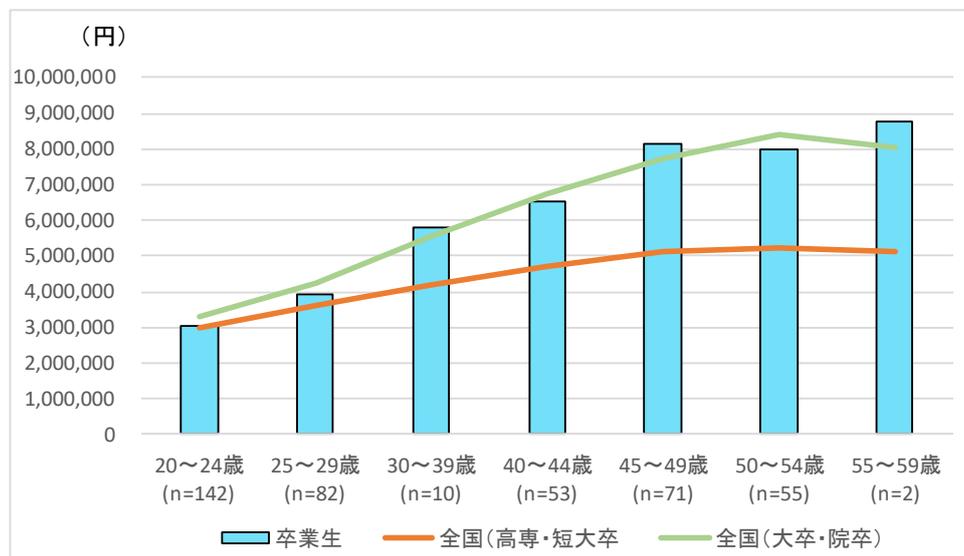


- ・ 年齢別に年収をみると、年齢が上がるにつれて年収が増加し、49歳でピークを迎えている<sup>3</sup>（55～59歳は875万と最も高い年収ではあるが、サンプル数が2のため参考値）。
- ・ 全国の高専・短大卒の平均年収と比較すると<sup>4</sup>、本校の卒業生の年収は、30代以降は全国平均よりもかなり高い。また、全国の大卒・院卒の平均年収とは大きな差はない。

図表 2-68 2017年（平成29年）の平均年収（年齢区分別）



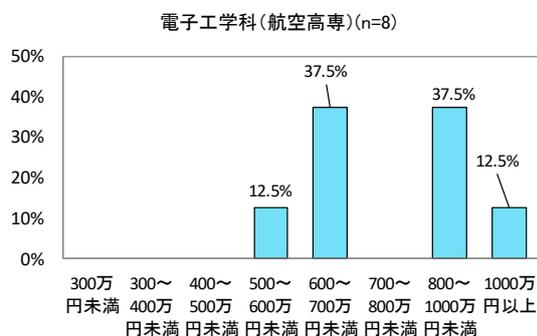
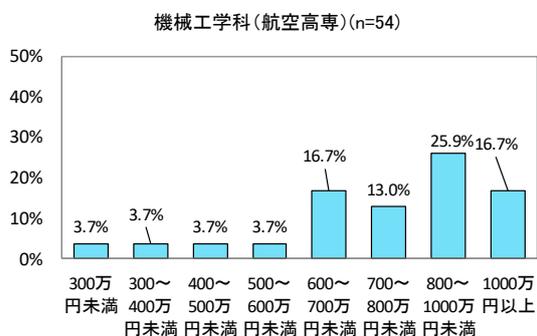
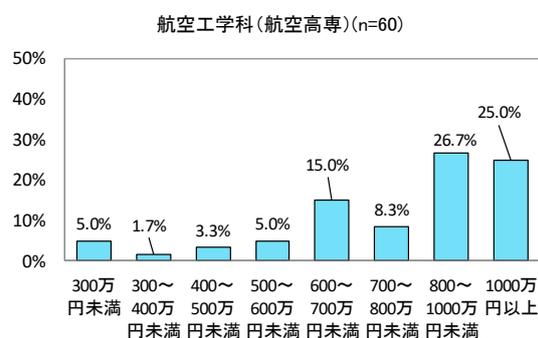
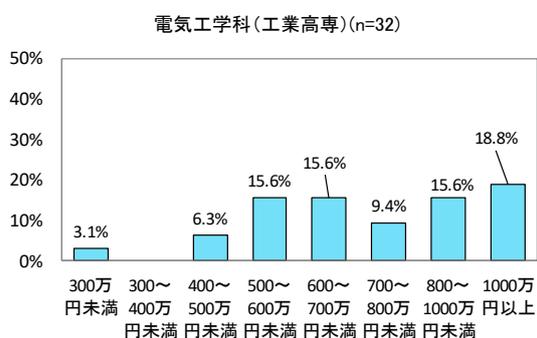
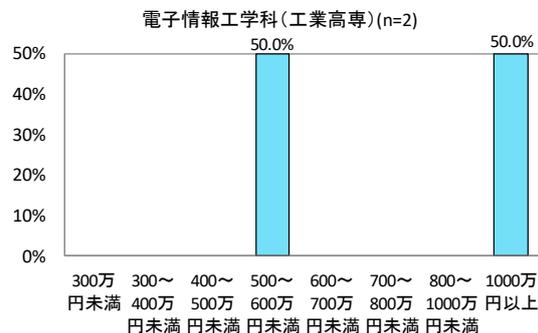
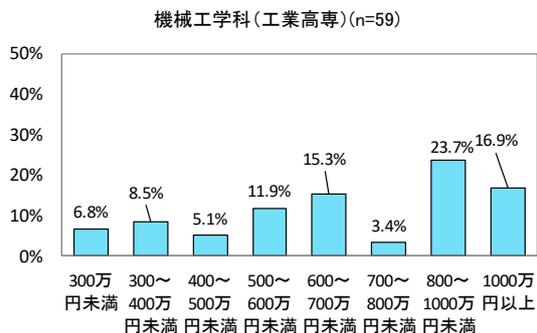
図表 2-69 2017年（平成29年）の平均年収（年齢区分別）（全国平均との比較）



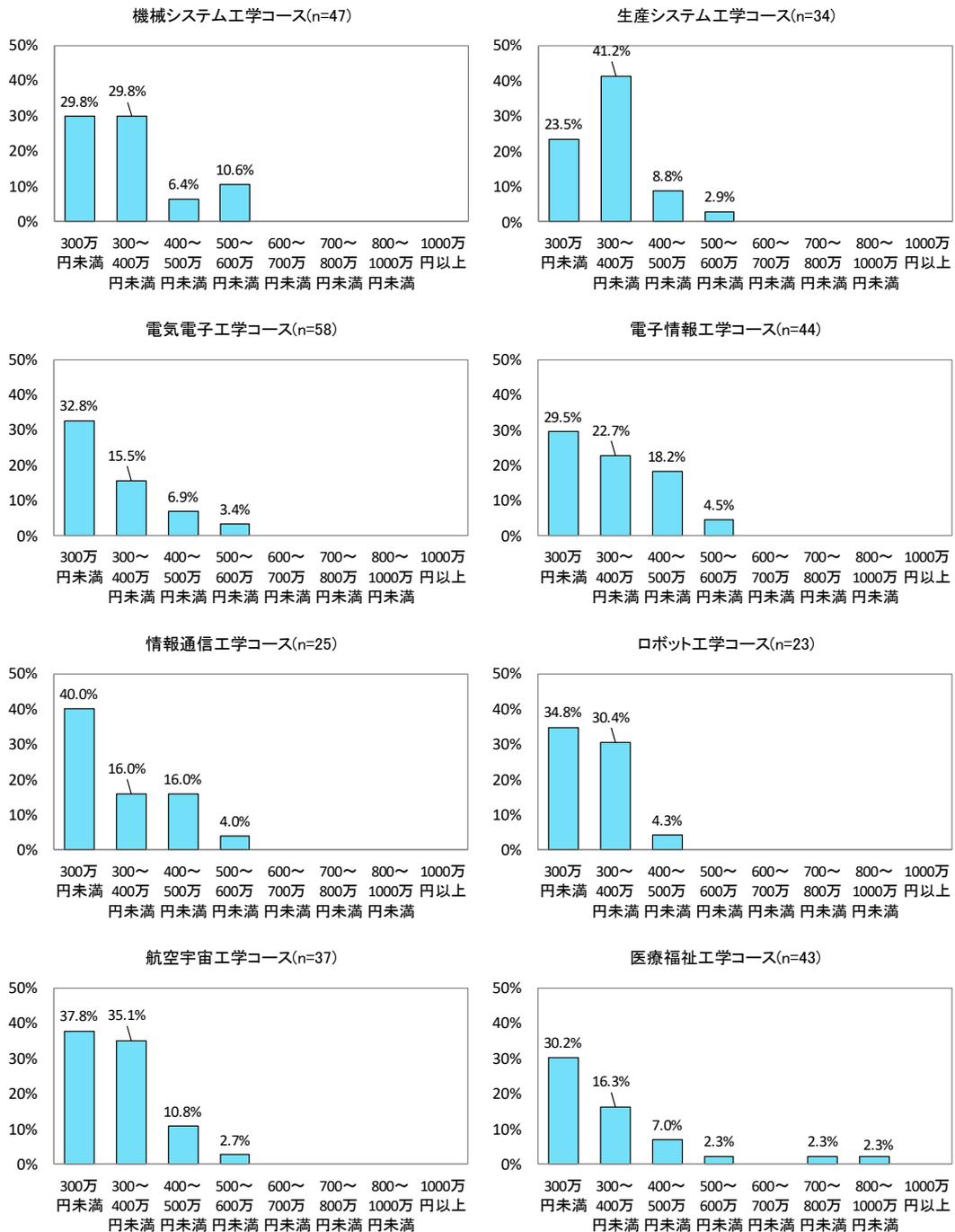
<sup>3</sup> 回答の「300万円未満」を250万、300万～400万は350万（他同様）、1000万以上は1000万とし、年代別に平均を求めた。

<sup>4</sup> 厚生労働省「平成29年賃金構造基本統計調査」より算出

図表 2-70 2017年（平成29年）の年収（旧高専・学科別）



図表 2-71 2017年（平成29年）の年収（新高専・コース別）



## 第3部 総合分析結果

本調査の主な結果は、以下の通り。

### 【卒業後の進路】

- 本科卒業後の進路は、旧高専は就職の割合が8割強と高いのに対し、新高専は進学が5割近くを占めている。前回調査と比較すると、本科卒業後の進路に進学を選ぶ者が年々増加していることがわかる。
- 専攻科修了後の進路は、約4割が修士課程以上に進学している。全国の大学卒業生の平均と比べても、本校の専攻科修了生の修士課程進学率はやや高い。
- 卒業後の仕事は、「会社員」の割合が高く、業種は「製造業」の割合が最も高い。勤務先の従業員規模は、「大企業」の割合が約7割と高い。
- 旧高専は在職期間が10年以上と長くなっており、一つの企業に継続して勤務する割合が高いと言える。
- 海外勤務の経験は旧高専で17.7%が「ある」と回答している。勤務地は「アジア」の割合が高い。
- 転職回数は旧高専で「0回」が約6割となっており、全国の大卒・高卒の転職経験割合と比較しても、本校の卒業生は最初に就職した企業で働き続ける割合が高いことがわかる。
- 現在の就労状況の満足度は旧高専で約7割だが、新高専では約6割である。新高専において、現在の就労状況の満足度がやや低く、転職割合は低いものの、本人が納得していない就職をしている卒業生が一定数存在する可能性が示唆される。

### 【学生生活について】

- 本科の学生生活については、「専門科目の講義」、「専門科目の実験実習」に満足している割合が高い。また、「教育施設・設備」については満足している割合が年々増加している。
- 新高専（専攻科進学）は、「卒業研究」について満足している割合が高くなっている。
- 専攻科進学者の満足度を本科時代の満足度と比較してみると、「インターンシップ」と「英語系」については本科時代よりも満足度が高くなっているが、「専門科目の実験実習」は本科時代よりも満足度が低い。
- 専攻科に行った学生は、「専門科目の講義について」「専門科目の実験実習について」な

ど卒業研究以外の教育について、専攻科に行っていない学生に比べて満足度が低い。専攻科に行くような学生にも満足できるレベルの高い授業が必要と考えられる。

●在学中に熱心に取り組んだことは、「部活動・同好会活動」、「勉強」の割合が高くなっている。前回調査も含めた経年でみると、「アルバイト」の割合は低下傾向にある。

●就職先や進学先を決定するうえで重視しているのは、旧高専、新高専では「業種」、「安定性」の割合が高く、新高専（専攻科進学）では「専門分野との関連」の割合が高い。

●学校の就職・進学支援については、約7割～8割弱が「役立った」と回答している。卒業後の進路選択についても約8割が満足している。

### 【本校で学んで身に付いたこと】

●本校で学んで身に付いた能力としては、「十分身に付いた」と「ある程度身に付いた」の合計値をみると「理数と専門の工学に関する知識」が身に付いたとする割合が高い。

●新高専（専攻科進学）では、「プレゼンテーション能力」の割合が高く、特に専攻科については学会発表等の成果が出ていると言える。

●本科教育において今後必要になることや強化すべき点については、旧高専では、「豊かな国際感覚」、「英語力」を強化すべきと考える割合が他よりも高い。新高専、新高専（専攻科進学）では、「工学的知識・技術の基礎基本を身に付ける」、「豊かな教養、倫理観及び広い視野」を強化すべきと考える割合が旧高専よりも高くなっている。

### 【教育プログラムについて】

●新設のプログラム「情報セキュリティ技術者育成プログラム」、「航空技術者育成プログラム」についての感想を聞くと、旧高専では6割～7割が「よい試みである」と回答しており、社会人経験が長いほど良い試みだと評価されている。

●今後必要となる教育プログラムについては、Society 5.0の実現に欠かせないAIやIoT、データサイエンスに関する項目に対するニーズが高いことがわかる。

●リカレント教育は約半数字程度が参加を希望している。

●国際化事業で参加したプログラムは「学生交流プログラム」の割合が高い。国際事業参加者は、約4割が「海外での勤務に積極的に参加している（学生は参加したい）」と回答している。

### 【卒業後の仕事や暮らしについて】

- 卒業後に高専時代の友人や教員を取り合っているかどうかについては、卒業時期が直近なほど割合が高い。
- 本校のホームページの閲覧状況は、現役の学生が多い新高専（専攻科進学）では約半数が閲覧していると回答している。閲覧する頻度は、新高専（専攻科進学）が旧高専・新高専よりもやや高い。
- 結婚、出産、子育て、介護等をきっかけに仕事を退職したことがあるかについては、旧高専の女性では約4割が退職の経験があると回答している。また、旧高専の女性の6割近くが、「現在の職場において待遇等で男女差を感じる」と回答している。
- 年齢別に年収をみると、年齢が上がるにつれて年収が増加し、49歳でピークを迎えている。

## 第4部 資料編